

1 気象災害

名古屋地方気象台

○ 風 害

風が強くなると、その風圧によって建造物等を破壊し、樹木を倒伏させる災害や、海水塩分を内陸へ運んで塩風害を起こしたりする災害が現れる。また風の吹き寄せによって湾奥の海岸に高潮を発生させることもある。

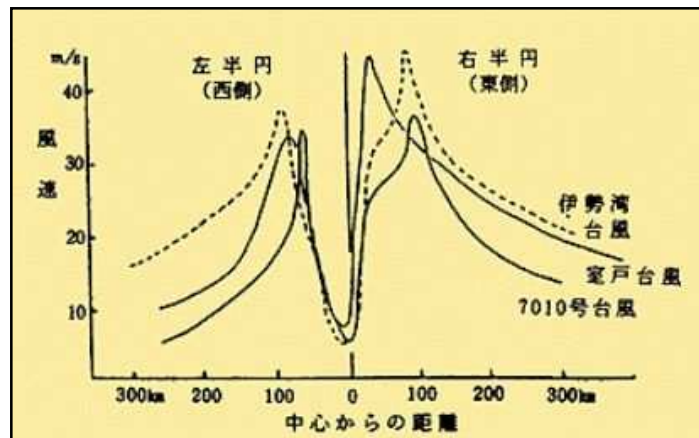
風の破壊力は一般に構造物の形状によって大きく違ってくるが、風圧は風速の2乗に比例して増大するので、風速が2倍になれば風圧は4倍となる。

風害は台風によるものが圧倒的に多いが、このほか発達した低気圧や前線に伴う強風、局地的に発生する竜巻等の突風によっても起こる。

ア 台 風

台風は巨大な空気の渦巻きになっており、地上付近では上から見て反時計回りに強い風が吹き込んでいく。そのため、進行方向に向かって右の半円では、台風自身の風と台風を移動させる周りの風が同じ方向に吹くため風が強くなる。逆に左の半円では台風自身の風が逆になるので、右の半円に比べると風速がいくぶん小さくなる。

台風の中心からの距離と風の強さの関係を示したグラフ(右図)で分かるように、中心(気圧の最も低い所)のごく近傍は「眼」と呼ばれ、比較的風の弱い領域になっている。しかし、その周辺は最も風の強い領域となっている。また、台風が接近して来る場合、進路によって風向きの変化が異なる。



ある地点の西側または北側を、台風の中心が通過する場合、その地点では、「東→南→西」と時計回りに風向きが変化する。逆に、ある地点の東側や南側を、台風の中心が通過する場合は「東→北→西」と反時計回りに変化する。周りに建物などがあると、必ずしも風向きがこのようにはっきりと変化するとは限らないが、風向きの変化は台風に備える際の参考となる。実際に名古屋で20m/s以上の風を観測した台風の通過経路を調査すると、中心がごく近くを通った場合を除けば、ほとんどが名古屋の西側を北上していることがわかる。もし、ある地点の真上を台風の中心が通過する場合は、台風が接近しても風向きはほとんど変わらないまま風が強くなる。そして台風の眼に入ると風は急に弱くなり、時には青空が見えることもある。しかし、眼が通過した後は風向きが反対の強い風が吹き返す。台風の眼に入った場合の平穏は「つかの間の平穏」であって、決して台風が去ったわけではない。台風の風は陸上の地形の影響を大きく受け、入り江や海峡、岬、谷筋、山の尾根などでは風が強く吹く。また、建物があるとビル風と呼ばれる強風や乱流が発生する。道路上では橋上やトンネルの出口で強風にあおられるなど、局地的に風が強くなることもある。

台風が接近すると、中心から数100km離れていても台風の東側領域では、広い範囲で竜巻が発生することがある(例:2013年9月台風第18号)。

なお、愛知県において、甚大な災害をもたらした台風には伊勢湾台風があり、記録的な暴風と高潮を伴い日本の台風史上最大の被害をもたらした。

イ 温帯性低気圧と前線

発達した温帯低気圧が当地方を通過したり、低気圧が日本海で急速に発達するような場合、海上を中心

に風速 20m/s 以上の非常に強い風が吹くことがあり、小型船舶等の海難事故が発生することがある。前線や前線付近の活発な積乱雲が通過する際の突風では、住家等に被害を与えることがあり、海上では海難事故の原因となる。

○ 水 害

水害は、大雨や短時間の強雨が主な原因となって発生する災害である。被害の発生は、低地の浸水や河川の氾濫は平野部で、土砂崩れがけ崩れは山間部で発生する。

ア 台 風

台風が日本の南海上にあり、停滞前線が本州付近に停滞している場合、暖湿気流が南海上から多量に送られてくるため、日本付近にある前線の活動が活発となり、大雨を降らせる。さらに台風が接近すると前線は北に押し上げられ山間部では、山の斜面に沿う地形性の上昇気流も加わり、雨量は平地にくらべて多くなる。

台風が愛知県の西側を通過するときは、愛知県は右半円に入り、南寄りの暖湿気流が強く、山間部の地形性降雨がとくに著しい。一方、台風が南から東へ抜けるような場合は、前線の活動が活発になり、県全域にわたって大雨となることがある。

愛知県の西側を通過した伊勢湾台風についてみると、台風の直接および間接の影響による9月25日から26日の2日間降水量の県内分布は、三河湾沿岸で70～100mm、その他の平地や山沿い地方で100～200mm、三河山間部では220～320mmとなっており、地形による降雨の違いがはっきりわかる。

イ 前 線

梅雨前線や秋雨前線に伴う又はこれらの前線の南側（暖域側）で降る大雨によって起こる水害は、台風による水害とほぼ同様の頻度で発生し、時には線状降水帯の発生により記録的な大雨となることがある。昭和36年の「36.6 梅雨前線豪雨」や昭和47年の「47.7 豪雨」はともに台風により劣らぬ被害を生じている。また、平成12年の「東海豪雨」では、秋雨前線に向かって台風からの暖かく湿った空気が入って線状降水帯が発生し、名古屋市、東海市で9月11～12日の2日間の総降水量が500mmを超したのをはじめ、県内では記録的な大雨となった。この大雨で洪水、浸水、土砂くずれ等により多数の被害が生じている。

愛知県での記録的な大雨は、台風を除くとほとんど梅雨前線や秋雨前線によって発生している。前線による雨は暖かい湿った気流が収束する地域で線状降水帯が発生するなどの要因により、局地的な大雨や集中豪雨をもたらすことがある。

ウ その他

このほか夏季において強い日射や上空の寒気などの影響により、大気の状態が不安定となって、局地的に大雨を降らせることがある。

○ 高潮害

高潮は、台風や発達した低気圧などに伴い、気圧が下がることによる海面の吸い上げ効果と強風により海水が海岸に吹き寄せられる効果のために、海面が異常に上昇する現象である。

伊勢湾、三河湾の沿岸では、風害の項で述べたように台風が湾の西側を通過するときに高潮が発生することが多い。海面の吸い上げ効果は気圧1hPaの低下に対して1cmの上昇、強風による吹き寄せ効果は、風速の2乗に比例し伊勢湾では南南東の風の場合に最も大きくなる。

高潮は湾口が広く、しかも深く、湾奥ほど狭まって浅くなっているような湾に発達する。伊勢湾はこれに近く、南寄りの風のときは吹走距離も長いため、吹き寄せ効果が大きくなる。三河湾は湾口は狭いが、南～南西風が強くと北岸や東岸には顕著な高潮が現われることがある。

東海地方に影響のあった主な台風

名古屋地方気象台

1 昭和9年9月21日の室戸台風

この台風は、時速20kmくらいの速さで海上を進み、19日夜沖縄の南海上に近づいた。ここで北東に向きを変え、四国沖を進んで20日夜半過ぎ室戸付近へ非常に強い大型台風として時速60kmで上陸した。上陸後は徳島の西、淡路島、神戸市、敦賀の西を通過したのち、速度を70~90kmに速め、勢力を衰えさせながら本州を縦断して宮古付近から三陸沖へ去った。

2 昭和28年9月25日の台風第13号

台風第13号は、トラック島南東150kmの海上で発生し西から次第に北西に進んで22日夜沖ノ鳥島の西洋上で急速に発達して猛烈な大型台風になった。

この辺から四国沖に向けて北上し、25日17時過ぎに志摩半島を横断し、毎時40kmくらいの速さで伊勢湾を経て、東日本を北東進し、カムチャッカ半島へ去った。

3 昭和34年9月26日の伊勢湾台風

台風第15号は、エニウエトック島の西250kmの海上に発生した熱帯低気圧が発達したもので、台風となったのは、9月21日、北緯15°東経150°付近に達した頃からである。それが9月23日マリアナ諸島で中心気圧が894hPaに発達して超大型台風になり、北上して9月26日夜の紀伊半島上陸後まであまり勢力が衰えなかった。

台風の本邦上陸にあたり風速の最大区域が台風中心経路の東側70km付近の志摩半島東部から伊勢湾にかけて舌状にのびていた。これにより伊勢湾に記録的な高潮が発生した。

4 昭和36年9月16日の第2室戸台風

マーシャル諸島付近で発生した熱帯低気圧が、9月8日15時に台風第18号となった。12日朝にはマリアナ群島の南西海上で900hPa以下の超大型台風に発達し、14日夜半沖縄の東側でゆっくり転向し、16日朝には四国の南海上から室戸岬をかすめて大阪湾に向かい同日13時30分頃尼ヶ崎と西ノ宮の間に上陸した。その後、北東進して敦賀付近に進んだ。

台風の規模も進路も昭和9年の室戸台風に似た台風であった。

5 昭和37年7月27日の台風第7号

台風第7号は、硫黄島の東およそ1,500kmの海上に発生したもので、発生地が非常に北東にかたよっていた。

発生後1日目は北上、2日目から西進して、27日には四国の南東海上で北東に向きを変え、27日13時頃潮岬と白浜の間に上陸、東海地方、関東地方北部をとおって三陸沖に去った。海上を進行中は965hPaくらいの中心気圧の中型の規模だったが上陸後は急速に衰え、28日には熱帯低気圧になった。

6 昭和37年8月26日の台風第14号

台風第14号は、8月21日09時、マリアナ諸島の海域で発生した。硫黄島付近にかかった頃には中心気圧950hPaになり、にわかに注目されるようになったが、夏台風特有の小型であった。小笠原諸島の父島西方を

過ぎる頃から向きを北に変え、そのまま中部地方に向かって北上した。

26日04時頃三重県の北牟婁郡中島付近に上陸し、その後北上し琵琶湖付近をとって日本海へ抜けた。

7 昭和46年8月30日～31日の台風第23号

台風第23号は、8月21日09時、南鳥島の南西で発生しゆっくり北西に進み、28日朝、奄美大島の南東に達した。この頃から移動速度がさらに遅くなり、急に発達しはじめ、屋久島付近を通過する頃には中心気圧が915hPaに低下した。

29日夜半頃大隈半島（佐多岬）に上陸し、四国から大阪付近、三重県南部をとおり31日昼頃伊良湖岬をかすめて東へ去った。

8 昭和47年9月16日の台風第20号

台風第20号は、9月13日12時、沖ノ鳥島の南500kmで発生した。ゆっくり北西に進み、沖の大東島の南海上で転向し進行方向を北に変えた。

一方、15日15時には低気圧が朝鮮半島北部の元山沖約400kmにあり、閉塞前線が南東にのびて、愛知県付近に達していた。愛知県では、この前線の影響により15日朝から降雨が強くなった。

台風は、16日18時30分頃潮岬付近に上陸した。その後、三重県を経て、岐阜県西部をとおり17日05時には佐渡付近に達し、午後には北海道西岸に達した。

9 昭和54年9月30日～10月1日の台風第16号

9月23日15時ヤップ島の北西海上で台風となった台風第16号は発達しながら北西に進み、26日の朝には沖縄の南南東の海上で中心気圧920hPaとなって最盛期を迎えた。26日の昼頃から速度を落としながら北向きにコースを変え、29日15時には奄美大島の東海上に達した。台風はこの頃から向きを北東に変えながら次第に加速し、30日18時30分頃高知県室戸付近に上陸した。23時頃大阪市に再上陸、岐阜市の北をとって本州を北東に縦断し、10月1日09時には八戸沖へ抜けた。

10 昭和54年10月19日の台風第20号

10月6日15時トラック島の東で台風となった、台風第20号は8日の朝から北西に進みはじめ、9日夜グアム島の南海上を通過した頃から急速に発達。12日15時には沖ノ鳥島の南南東約400kmの海上で中心気圧870hPaを観測、大型で猛烈な台風となった。台風はその後ゆっくりとした速さで西北西に進み16日早朝から北北西に向きを変え、18日09時には沖縄の南約150kmの海上に達した。

台風はこの頃から次第に北東に向きを変えながら加速し、19日09時40分頃和歌山県白浜付近に上陸、名古屋市のすぐ西をとって本州を北東に縦断し、19時には八戸沖へ抜けた。

11 平成2年9月19日～20日の台風第19号

グアム島の北西海域で発生した熱帯低気圧は9月13日台風第19号となり、発達しながら北西に進み、16日から17日にかけて、ゆっくり沖縄の南東海上に近づき、急激に発達した。17日午後には中心気圧890hPaを記録し、猛烈な台風となった。

その後台風は北東進し、950hPa以下の勢力を保ったまま、19日20時過ぎ和歌山県白浜の南に上陸した。上陸後は速度を上げて近畿地方から東海地方をとおり、本州を縦断し、20日12時には三陸沖に抜けた。

12 平成3年9月18日～19日の台風第18号

台風第18号は18日沖縄の東沖を加速しながら北東進。それに伴い南海上に停滞する秋雨前線の活動が活発となった。台風は19日夕方、八丈島の南をとおり、夜には銚子沖に達し、20日早朝三陸沖で温帯低気圧となった。このため、東海地方を含め、太平洋岸各地で記録的な大雨となり、被害は東海地方から東北地方の16都県に及んだ。愛知県では、18日午前中から雨となり、夜半過ぎには所々で激しく降り、18日から19日にかけて100～300mmの大雨となった。

13 平成6年9月29日～30日の台風第26号

9月19日03時にグアム島の南西海上で台風となった台風第26号は、発達しながら北に進路をとり、29日19時30分頃大型で強い勢力を保ったまま和歌山県南部に上陸した。上陸時の中心気圧は950hPa、中心付近の最大風速は40m/sであった。上陸後は勢力を弱めながらやや速度を速め、琵琶湖付近をとおって30日03時には石川県沖に進んだ。

この台風の影響により、東部の山間部では総降水量が200mmを超えた。

14 平成10年9月21日～23日の台風第7号と台風第8号

9月17日21時にフィリピンの西の海上で発生した台風第7号は、徐々に発達しながら南西諸島の東海上を北東進した。また、台風第8号は9月20日に日本の南海上で発生し、北上した。

日本への上陸は第8号のほうが早く、21日16時前に和歌山県田辺市付近に上陸し、翌日の22日13時過ぎには第7号が和歌山県御坊市付近に上陸した。

第8号の上陸時の勢力はごく小さく、弱いものであったが、21日夜に一時風雨が強くなった。第8号は強い雨が顕著で、東部の山間部では21日の21時から23時にかけて、1時間に40～60mmの激しい雨が降った。

1日遅れて上陸した第7号は、中型で、強い勢力を保って22日15時頃に滋賀県をとおり、北陸へ向かった。台風が愛知県の西を強い勢力で進んだことから、県内では南寄りの暴風が吹き荒れ、名古屋では最大瞬間風速、南南東の風42.6m/sを観測した。この値は昭和34年の伊勢湾台風時に観測した45.7m/sに次ぐ観測開始以来第2位の記録となった。

15 平成12年9月11日～12日の台風第14号

サイパン島の東海上にあった熱帯低気圧は、9月2日21時に台風第14号となった。10日09時には南大東島の東南東の海上に達し、大型で非常に強い勢力に発達した。一方、9月11日から12日にかけて、日本付近には秋雨前線が停滞しており、この前線に向かって台風第14号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んで活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録的な大雨となった。

愛知県では県西部を流れる新川の堤防が決壊したのをはじめ、河川の破堤は20か所に達したほか、名古屋市内では広範囲に浸水被害が発生した。

この大雨で、名古屋地方気象台が観測した日最大1時間降水量97.0mm、日最大降水量428.0mm、月最大24時間降水量534.5mmは、いずれも統計開始以来最も多い値となった。

台風は、12日19時過ぎには沖縄を通過し、東シナ海で向きを北寄りに変え、九州の西海上を北東に進んで朝鮮半島に上陸した。その後、日本海に進み16日15時には日本海西部で温帯低気圧となった。

16 平成15年8月8日～9日の台風第10号

台風第10号は8月3日15時にフィリピンの東で発生し、7日15時には大型で非常に強い台風となった。台風第10号は強い勢力を維持したまま8日21時30分頃に高知県室戸市付近に上陸し、いったん瀬戸内海に抜けた後、9日06時頃に兵庫県西宮市付近に再上陸した。その後はやや勢力を弱めながら本州を縦断するように北東に進み、10日06時に千島近海で温帯低気圧に変わった。

台風第10号は動きが比較的遅く、愛知県では台風からの湿った南よりの風が長時間続いたため、茶臼山で390mmの総降水量を観測するなど愛知県東部の山地で雨量が多くなった。

風も非常に強く吹き、名古屋で9日06時17分に東南東の風28.0m/s、伊良湖で9日01時26分に南の風27.3m/sの最大瞬間風速を観測した。

17 平成16年10月8日～9日の台風第22号

台風第22号は、10月4日12時にフィリピンの東で発生し、8日03時には中心気圧920hPa、中心付近の最大風速50m/sの非常に強い台風となった。その後、台風はゆっくり北上し、9日16時頃伊豆半島に上陸、関東地方南部を経て茨城県沖へ進み10日09時に日本の東で温帯低気圧となった。

台風が愛知県に最も接近したのは9日14時から15時頃であった。台風の北上と停滞前線の影響により愛知県では多いところで2日間で300mmを超える大雨となり、9日には約半数の観測所で10月としての日降水量の極値を更新した。

18 平成16年10月20日～21日の台風第23号

台風第23号は、10月13日9時にマリアナ諸島で発生し、16日21時には中心気圧940hPa、中心付近の最大風速45m/s、暴風半径280km、強風半径1100kmの超大型で非常に強い台風となった。その後、台風第23号はゆっくり北上し、20日13時頃に高知県土佐清水市付近に上陸、近畿地方から東海地方を経て21日09時に関東の東海上で温帯低気圧となった。

台風の中心が愛知県に最も接近したのは20日夜のはじめ頃から夜遅くで、名古屋では20日18時39分に南の風33.2m/s、伊良湖では17時28分に南東の風35.2m/sの最大瞬間風速を観測した。また、総降水量は、津具村茶臼山で265mmとなり、東三河北部を中心に200mmを超える大雨となった。

19 平成21年10月7日～8日の台風第18号

台風第18号は9月30日09時に発生し、ゆっくりと西に進み、10月4日09時にはフィリピンの東で、中心気圧920hPa、最大風速55m/sの猛烈な台風に発達した。

台風は6日から7日にかけて南大東島付近を通過し、中心気圧940hPa、最大風速45m/sの強い勢力を維持したまま、北北東から北東に進み、8日05時すぎに知多半島付近に上陸後、愛知県から関東甲信地方へ進んだ。

この台風の影響により、伊良湖では8日に日最大瞬間風速39.9 m/sを観測した（1953年の観測開始以来10月の極値を更新）。また、名古屋では、8日に日最大1時間降水量67.0mmを観測した（1890年の観測開始以来10月の極値を更新）。

20 平成23年9月2日～4日の台風第12号

台風第12号は、8月25日09時にマリアナ諸島の西の海上で発生し、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、30日には小笠原諸島付近で中心気圧が965hPa、最大風速が35m/sの大型で強い台風となった。台風

は、いったん西に進んだ後北へ向きを変え、9月2日には大型の台風となって暴風域を伴ったまま四国地方に接近し、3日10時前に高知県東部に上陸した。台風はその後ゆっくりとした速さで北上を続け、18時頃に岡山県南部に再上陸した後、4日未明に山陰沖に進み、5日15時に日本海中部で温帯低気圧に変わった。

台風が大型でさらに動きが遅かったため、長時間にわたって台風周辺の非常に湿った空気が流れ込み、愛知県では、降り始め（2日09時）から5日14時までの降水量は、西三河北東部、東三河北部で300mmを超え、豊田市稲武では330.0mmを観測した。

21 平成23年9月20日～21日の台風第15号

台風第15号は、9月13日21時に日本の南で発生し、北に進んだ後西に向きを変え、16日にかけて大東島地方に向かって進んだ。台風は、南大東島の西海上を反時計回りに円を描くようにゆっくり動いた後、19日21時には最大風速が35m/sの強い台風となって奄美群島の南東海上を北東に進み、20日21時には中心気圧が940hPa、最大風速が50m/sの非常に強い台風となった。台風は、速度を速めつつ四国の南海上から紀伊半島に接近した後、21日14時頃に静岡県浜松市付近に上陸し、強い勢力を保ったまま東海地方から関東地方、そして東北地方を北東に進んだ。

愛知県では、19日夕方から、東海地方に上陸し関東地方に進んだ21日夕方にかけて、断続的に強い雨が降り、特に20日は、名古屋市などで激しく降るなど、尾張東部から中濃・東濃にかけて大雨となり、庄内川が氾濫した。降り始め（19日17時）から21日19時までの降水量は、尾張東部、東三河北部で300mmを超えたところがあり、豊田市阿蔵では383.5mmを観測した。また、台風が最接近した21日昼頃から沿岸部では非常に強い風が吹き、伊良湖で21日12時34分に日最大瞬間風速33.0m/sを観測した。

22 平成24年6月19日の台風第4号

台風第4号は、6月12日15時にカロリン諸島で発生し、フィリピンの東海上に達した後、進行方向を変え発達しながら北上した。18日には沖縄の南海上、19日09時には九州の南海上を北北東に進み、強い勢力を維持しながら本州に接近し、19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸した。その後、台風は紀伊半島の東岸を北東に進み、伊勢湾を通過し、20時過ぎに愛知県東部に再上陸した。その後も北東に進み、関東甲信地方を通過し、20日9時には東北地方の東海上に達し温帯低気圧に変わった。

愛知県では、この台風と梅雨前線の影響により大雨となり、19日昼前から、断続的に強い雨が降り、台風本体の雨雲がかかり始めた夜には、豊田市阿蔵で1時間降水量65.5mmの非常に激しい雨を観測するなど、東部を中心に大雨となった。降り始め（19日00時）から20日06時までの降水量は、豊田市阿蔵では239.0mmを観測した。また、19日午後から東よりの風が強まり、夜には豊橋で最大瞬間風速29.1m/sを観測するなど東部を中心に東よりの強い風が吹いた。

23 平成25年9月16日の台風第18号

9月13日3時に小笠原の近海で発生した台風第18号は、日本の南海上を北西に進みながら14日09時に大型となり、15日夕方には四国の南海上に達した。その後、台風は進路を北東に変え、近畿地方や東海地方を暴風域に巻き込みながら東海道沖を北東に進み、16日08時前に愛知県豊橋市付近に上陸した（08時の中心気圧は970hPa）。台風は上陸後も勢力を維持したまま北上し、暴風域を伴って関東甲信地方を北東に進んだ後、東北地方南部を経て16日18時には三陸沖に達した。

愛知県では、14日夜から台風の北側の雨雲がかかりはじめ、15日夕方にかけて所々で雨が降ったが、15日

夜遅くから県内全域で雨となった。台風本体の雨雲がかかった16日朝には、東部を中心に非常に激しい雨が降り、特に豊田市小原では16日09時06分までの1時間に96.0mmの猛烈な雨が降り、観測開始以来の極値を更新した。降り始め(14日21時)から16日16時までの降水量は、豊田市阿蔵で321mmを観測した。解析雨量では、9月16日16時までの48時間に、豊田市東部付近、新城市付近、設楽町付近で約350mmとなった。風については、15日午後から南東よりの風が強まり、16日朝にかけ海上を中心に南東の非常に強い風が吹いた。また、台風の通過後は、北西の非常に強い風が吹いた。豊橋市豊橋では、最大瞬間風速39.4m/sを記録した。海上では15日早朝から波やうねりが高くなり、16日は大しけとなった。

24 平成26年8月9日～10日の台風第11号

台風第11号は、7月29日12時にマリアナ諸島付近で発生し、8月4日09時にはフィリピンの東に進んだ。その後、進路を次第に北に変え、日本の南から四国の南に進み、8月10日06時過ぎに高知県安芸市付近に上陸した。その後、台風は兵庫県赤穂市付近に上陸し、8月10日の昼過ぎには日本海に達した。8月11日09時には日本海北部で温帯低気圧に変わった。台風の接近に伴い、北日本から西日本にのびる前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響により、8月9日未明から10日にかけて大雨となった。

三重県では8月9日の日降水量が、津市白山で435.5mm、津市笠取山で393.0mm、亀山で333.0mmを観測し、統計開始以来の極値を更新した。降り始め(8月8日14時)から8月10日24時までの総降水量は、三重県大台町宮川で661.5mm、三重県津市白山で518.0mmとなった。このため、気象台は三重県を対象として9日17時20分に大雨特別警報を発表した。

25 平成26年10月5日～6日の台風18号

台風第18号は、9月29日15時にトラック諸島近海で発生し、10月2日09時にはフィリピンの東で大型で非常に強い台風となった。4日09時には南大東島の東南東の海上に進み、次第に進路を北に変え、5日09時には屋久島の南南東の海上で大型で強い台風となった。その後、進路を北から北東に変え、6日03時には潮岬の南南西の海上、6日06時には尾鷲市の東南東の海上を北東に進んだ。6日08時過ぎに静岡県浜松市付近に上陸し、速度を上げて6日09時には静岡市付近、6日11時には東京23区付近を北東に進み、昼過ぎには関東の東に達した後、6日21時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの5日01時から6日12時までの降水量は、豊橋市神野新田町で222.5mm、田原市伊良湖で187.0mm、新城市作手高里木戸口で179.0mmを観測した。常滑市セントレアでは最大風速21.8m/s、最大瞬間風速27.3m/s、豊橋市豊橋では最大風速19.3m/s、最大瞬間風速32.2m/s、を観測した。

26 平成26年10月13日～14日の台風19号

台風第19号は、10月3日21時にマーシャル諸島で発生したのち西北西に進み、7日21時にはフィリピンの東で猛烈な台風となり、次第に向きを北に変えながら10日03時には沖縄の南で大型で非常に強い台風となった。12日03時には大型で強い台風となり東シナ海を北上した後、12日夜遅くには進路を東に変え、13日08時半頃に鹿児島県枕崎市付近に上陸した。13日09時には大型の台風となり、九州南部を通過し海上に進んだ後、13日14時半頃に高知県宿毛市付近に上陸し、四国を北東に進み、13日20時半頃に大阪府岸和田市付近に上陸した。13日23時には愛知県一宮市付近を通過し、14日00時には岐阜県郡上市付近に進み、14日06時には三陸沖に進んだ後、14日09時には温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの13日02時から14日04時までの降水量は、豊田市阿蔵町で125.5mm、愛西市江

西町 125.0mm、豊根村茶臼山で 124.0mm を観測した。常滑市セントレアでは最大風速 22.0m/s、最大瞬間風速 28.8m/s を観測した。海上では波の高さが 7m の大しけとなった。潮位は、衣浦で 10 月 13 日 19 時 38 分に最大潮位偏差（瞬間値）77cm、10 月 13 日 19 時 38 分に最高潮位（瞬間値）標高 147cm、名古屋で 10 月 13 日 19 時 42 分に最大潮位偏差（瞬間値）73cm、10 月 13 日 19 時 42 分に最高潮位（瞬間値）標高 150cm を観測した。

27 平成 27 年 9 月 9 日の台風第 18 号

台風第 18 号は、9 月 7 日 03 時に日本の南で発生し、ゆっくりした速さで北北西に進んだ。8 日 03 時には硫黄島の西北西を時速 25km で北へ進み、8 日 09 時には父島の西に達した。台風は 9 日 01 時には八丈島の西南西を時速 25km で北北西に進み、9 日 07 時に愛知県豊橋市の南を北北西に進んだ後、9 日 10 時過ぎに愛知県知多半島に上陸した。台風はその後、9 日 11 時には愛知県名古屋市付近、13 時には石川県小松市の南南東を北北西に進んだ後、日本海に進み、9 日 21 時に台風は日本海中部で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、降り始めの 7 日 13 時から 10 日 09 時までの降水量は、西尾市一色町で 219.5mm、田原市伊良湖で 212.5mm、南知多町豊丘で 210.5mm を観測した。風については、愛知県常滑市セントレアでは最大風速 17.8 m/s、最大瞬間風速 28.8m/s、田原市伊良湖では最大風速 15.9 m/s、最大瞬間風速 30.3m/s、名古屋市千種区では最大風速 14.3 m/s、最大瞬間風速 30.1m/s を観測した。

28 平成 28 年 9 月 19 日～20 日の台風第 16 号

台風第 16 号は、9 月 13 日 03 時にフィリピンの東で発生し、20 日 00 時過ぎに鹿児島県大隅半島に上陸し、西日本の南岸を東北東に進み、20 日 13 時半頃和歌山県田辺市付近に上陸した。その後、20 日夜のはじめ頃に愛知県を東進し、20 日 21 時に東海道沖で温帯低気圧に変わった。

愛知県では 19 日 17 時までの 1 時間に岡崎市木下町（愛知県雨量計）で 103mm の雨を解析した。また、20 日 17 時 23 分までの 1 時間に、蟹江町蟹江で 61.0mm の雨を解析した。19 日 00 時から 20 日 24 時までの 48 時間解析雨量積算では、西三河南部で 300mm を超える雨量を解析した。

29 平成 29 年 7 月 4 日～5 日の台風第 3 号

台風第 3 号は、7 月 2 日 09 時に沖縄の南で発生し、発達しながら北西に進んだ。3 日は東シナ海を北東へ進み、4 日 08 時頃に長崎市付近に上陸した。この後九州を横断し、豊後水道を東へ進んだ後、4 日 12 時過ぎに愛媛県宇和島市付近に上陸した。四国地方を横断した後、4 日 17 時前に和歌山県田辺市付近に上陸し、4 日夜は東海道沖を東に進んだ。その後、5 日 09 時には日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では 4 日 18 時 30 分までの 1 時間に瀬戸市付近、豊田市西部付近で約 70mm の雨を解析し、00 時から 24 時までの解析雨量は 150mm を越える雨量を解析した。

30 平成 29 年 8 月 7 日の台風第 5 号

台風第 5 号は 7 月 21 日 09 時に南鳥島近海で発生し西に進んだ。29 日には父島の東を南西に進み、8 月 1 日には日本の南で北西に向きを変え、6 日には九州の南で北東に向きを変えて進み、7 日 10 時頃に高知県室戸市付近を通過し、7 日 15 時半頃に暴風域を伴ったまま和歌山県北部に上陸した。上陸後は近畿地方を北東に進み、7 日 19 時には三重県伊賀市付近を通過し、8 日 05 時には富山湾に達した。その後も北陸地方の沿岸を北東に進み、8 日 18 時に新潟県佐渡市付近に達した後、9 日 03 時には山形県沖で温帯低気圧に変わっ

た。

愛知県では、降り始めの7日00時から8日24時までの降水量は豊根村茶臼山で224.5mm、豊田市阿蔵で203.0mmを観測した。愛知県常滑市セントレアでは最大風速22.7m/s、最大瞬間風速28.3m/sを観測した。県内では突風により人的被害、住家の損壊などが発生した。

31 平成29年9月17日～18日の台風第18号

台風第18号は、9月9日21時にマリアナ諸島で発生し、11日から12日にかけて強い勢力となりフィリピンの東から沖縄の南を北西に進んだ。16日に進路を東寄りに変えて東シナ海を東北東に進み、17日11時半頃、鹿児島県南九州市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま次第に速度を上げて九州南部及び四国地方を通過し、17日22時頃に兵庫県明石市付近に上陸した後、近畿地方及び北陸地方を北東に進み、18日北海道を北北東に進み、18日21時にサハリン付近で温帯低気圧に変わった。

愛知県ではセントレアで最大風速24.5m/s、最大瞬間風速は32.4m/s、名古屋市で最大風速16.5m/s、最大瞬間風速30.8m/sを観測した。

32 平成29年10月22日～23日の台風第21号

10月16日03時にカロリン諸島で発生した台風第21号は、発達しながらフィリピンの東海上を北上し、21日には超大型で非常に強い勢力となり日本の南海上を北上した。22日夜遅くには東海道沖を北北東に進んだ後、23日03時頃に超大型で強い勢力で静岡県御前崎市付近に上陸した。その後、暴風域を伴ったまま静岡県及び関東地方を北東に進み、23日15時に北海道の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では22日から23日にかけて、台風第21号や前線の影響により広い範囲で大雨や強風となり、23日は暴風となった所があった。このため、人的被害や住家被害、河川の越水などの被害が発生した。

33 平成30年7月28日～29日の台風第12号

7月25日03時に日本の南で発生した台風第12号は、26日21時には強い勢力となり発達しながら北上し、28日は次第に進路を西よりに変え伊豆諸島付近を北西に進んだ。台風は、暴風域を伴い強い勢力を維持したまま東海道沖を西へ進み、29日01時頃に三重県伊勢市付近に上陸した。東海地方を西へ進んだ非常に珍しい台風となった。

愛知県では28日から29日にかけて非常に強い風が吹き、29日は暴風となった所があった。このため、強風による人的被害が発生したほか、広域の停電や鉄道の運休などライフラインや交通機関に大きな影響があった。

34 平成30年8月22日～24日の台風第20号

18日21時にトラック諸島近海で発生した台風第20号は、小笠原諸島の南西海上を発達しながら北西に進み、22日12時に非常に強い勢力となり日本の南を北西に進んだ。23日は、四国の南海上を北上し、強い勢力で暴風域を伴ったまま23日21時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま四国地方および近畿地方を北上し、24日02時に日本海に抜けた後、24日15時に秋田県沖で温帯低気圧に変わった。

三重県では22日夜遅くから雨が降り、24日にかけて大雨となった。降り始めの22日22時から24日20時までの総雨量の多い所は、大台町宮川448.5mm、尾鷲311.0mm、御浜262.0mmであった。台風が三重県に接近した24日未明に、尾鷲の最大風速は24日00時31分に南南東の風19.4m/s、最大瞬間風速は24日00時30

分に南南東の風 36.3m/s を観測した。海上では台風の接近に伴って、波が高くうねりを伴い、23 日夜遅くには外海で 9m を超え猛烈なしけとなった。このため、人的被害があったほか、鉄道の運休や船舶の欠航、停電など、交通機関やライフラインに影響があった。

35 平成 30 年 9 月 4 日～5 日の台風第 21 号

8 月 28 日 09 時に南鳥島近海で発生した台風第 21 号は、マリアナ諸島を発達しながら西に進み、31 日 09 時に猛烈な勢力となった。その後は非常に強い勢力で日本の南海上を北上し、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して 4 日 12 時頃に徳島県南部に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま北北東に進み、14 時頃に兵庫県神戸市付近に再上陸、15 時には若狭湾に達し、日本海沿岸を北上した後、5 日 09 時に間宮海峡で温帯低気圧に変わった。

愛知県では 4 日から 5 日にかけて猛烈な風が吹き、4 日には県内の広い範囲で暴風となり海上では猛烈なしけとなった。また、台風の北上に伴って流れ込んだ雨雲の影響により大雨となった所があった。このため、強風による人的被害や建物の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、広域の停電など、交通障害やライフラインへの大きな影響があった。

36 平成 30 年 9 月 29 日～10 月 1 日の台風第 24 号

9 月 21 日 21 時にマリアナ諸島付近で発生した台風第 24 号は、フィリピンの東海上を発達しながら西北西に進み、25 日 00 時には猛烈な台風となった。30 日は次第に速度を速めながら四国の南海上を北東に進み、暴風域を伴い非常に強い勢力を維持して、30 日 20 時頃に和歌山県田辺市付近に上陸した。その後も暴風域を伴ったまま更に速度を速めて東海、関東甲信、東北地方を北東に進み、10 月 1 日 12 時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、台風が強い勢力のまま愛知県西部を通過したため、豊橋で最大風速 27.1m/s を観測し 2005 年の統計開始以来 1 位の記録的な暴風となった。最大瞬間風速は 38.1m/s で 2008 年の統計開始以来 2 位であった。また、台風本体の雨雲がかかった 30 日夜を中心に東三河北部では一時的に猛烈な雨が降った所があった。このため、強風による人的被害や建物等の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、広域および長時間にわたる停電など、交通障害やライフラインへの大きな影響があった。

37 令和元年 8 月 14 日～16 日の台風第 10 号

8 月 6 日 15 時にマリアナ諸島で発生した台風第 10 号は北西に進み、14 日 03 時には四国の南に進んだ後、進路を北に変え 15 日は豊後水道を北上した。11 時過ぎに愛媛県佐田岬半島付近を、東側 330km 西側 60km と東側に偏った暴風域を伴って通過、15 時頃に暴風域が消滅した状態で広島県呉市付近に上陸した。上陸後台風は中国地方を縦断し 15 日夜には日本海に進み、北上しながら進路を次第に北東に変えて 16 日 21 時に北海道の西で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、15 日朝から風が強まり始め、台風の進む速度が遅かったため強風は 16 日朝まで続いた。このため、強風による人的被害や建物等の被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航などの影響があった。

38 令和元年 9 月 8 日～9 日の令和元年房総半島台風（台風第 15 号）

9 月 5 日 15 時に南鳥島近海で発生した台風第 15 号は、小笠原近海を北西に進み、8 日には向きを北より

に変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。9日03時前に非常に強い勢力で三浦半島付近を通過、9日05時前に強い勢力で千葉市付近に上陸後、関東地方を北東に進んだ。

静岡県では、8日夜遅くから9日未明にかけて暴風となり、非常に強い風を観測した所があった。また、8日朝から断続的に雨となり、台風が接近した8日夜から9日未明にかけては伊豆地方を中心に猛烈な雨となり、降り始めからの総降水量は天城山で440.5ミリとなった。海上では、8日から9日にかけて波やうねりが高くなり、石廊崎では4メートルを超えるしけとなった。

このため、人的被害や建物等の被害が発生したほか、道路の通行止め、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航、断水・停電などライフラインへの影響があった。

39 令和元年10月11日～13日の令和元年東日本台風（台風第19号）

10月6日3時に南鳥島近海で発生した台風第19号は、マリアナ諸島を西に進みながら、7日18時に大型で猛烈な台風となった。台風はその後小笠原近海を北北西に進み、12日には北寄りに進路を変え伊豆諸島北部を北北東に進んだ。12日19時前に大型で強い勢力で伊豆半島に上陸した後、関東地方を通過し、13日未明に三陸沖に抜けた。

愛知県では12日を中心に強風となり外海では大しけとなった。また、台風周辺の活発な雨雲の影響により大雨となった所があった。このため、強風による人的被害が発生したほか、鉄道の運休や航空機・船舶の欠航などの影響があった。

40 令和2年9月6日～7日の台風第10号

9月1日21時に小笠原近海で発生した台風第10号は、5日11時には大型で非常に強い勢力となり、7日は九州の西海上から日本海西部を北に進み、8日03時には中国東北区で温帯低気圧に変わった。愛知県には台風本体の雨雲はかからなかったものの、台風東側の暖かく湿った空気と高気圧の縁をまわる暖かく湿った空気が合流して流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、6日から7日にかけて所々で雨となり、特に7日昼前から夕方にかけては、雷を伴い非常に激しい雨が降って大雨となった所があった。また、外海ではうねりを伴って大しけとなった。名古屋市で床上浸水などの被害が発生した。

41 令和4年9月18日～19日の台風第14号

9月14日03時に小笠原近海で発生した台風第14号は、日本の南を発達しながら北西に進み、18日19時頃に大型で非常に強い勢力で鹿児島市付近に上陸した。台風は九州を北上して19日朝には日本海に進み、19日16時半頃に島根県出雲市付近に再上陸した。その後、山陰沖を進んで20日04時過ぎに新潟市付近に上陸し、東北地方を進んで20日09時に日本の東で温帯低気圧に変わった。

愛知県では、9月18日夜から19日朝にかけて台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった。このため、愛知県の尾張西部で、道路冠水などの被害が発生した。

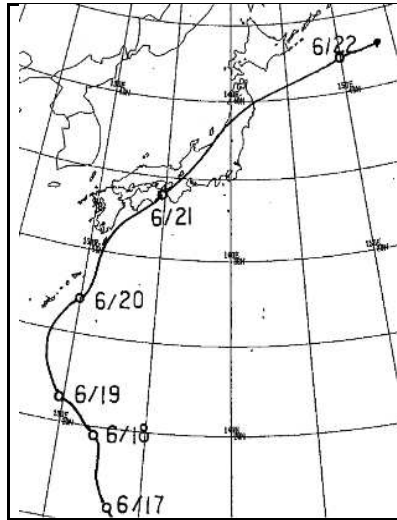
42 令和4年9月23日～24日の台風第15号

9月22日09時に日本の南の海上で発生した台風第15号は、その後北上した後、23日21時に紀伊半島の南で熱帯低気圧に変わった。

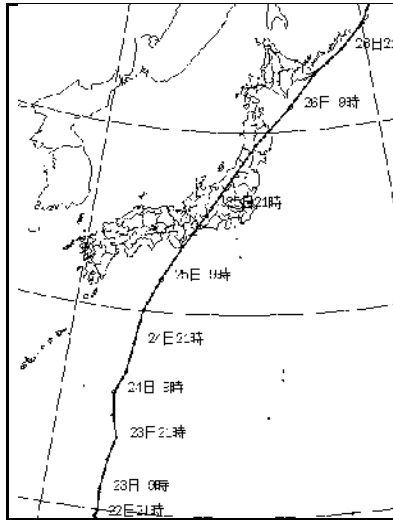
愛知県では、台風周辺の暖かく湿った空気が流れ込み大気の状態が非常に不安定となった。23日夕方から夜遅くにかけては線状降水帯が発生し、特に東三河南部では猛烈な雨が降り、降り始め（22日5時）からの総雨量が多い所で300ミリを超える大雨となった所があった。このため、愛知県西三河南部や東三河南部を中心に、住家被害や道路損壊などの被害が発生した。

(注) 平成4年12月1日、気象庁は台風情報等に用いる気圧の単位をhPa(ヘクトパスカル)に変更した。1mb=1hPaであることから、従前のmb(ミリバール)との換算は必要なく、単位を読み替えることのみで、旧来の資料等を使用することができる。

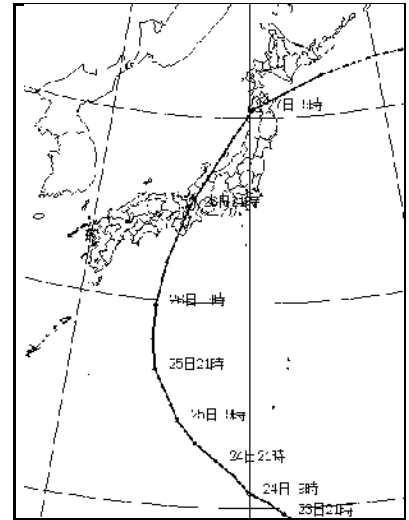
東海地方に影響のあった主な台風（経路図）



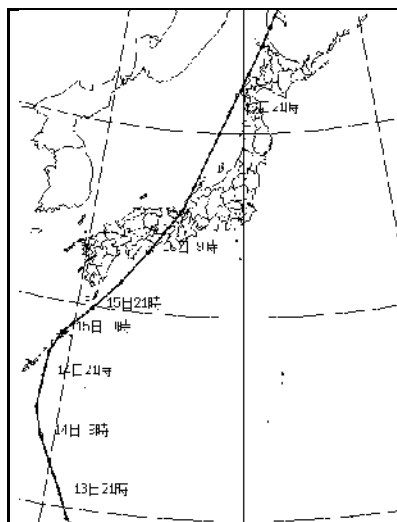
昭和9年9月の室戸台風
(○印は06時の位置)



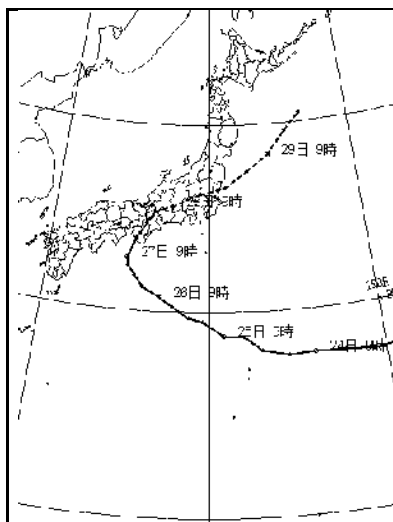
昭和28年9月の台風第13号



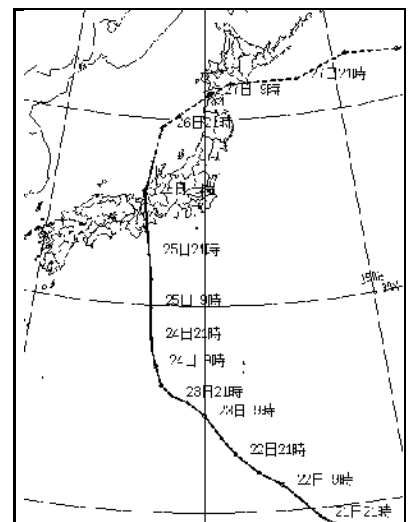
昭和34年9月の伊勢湾台風



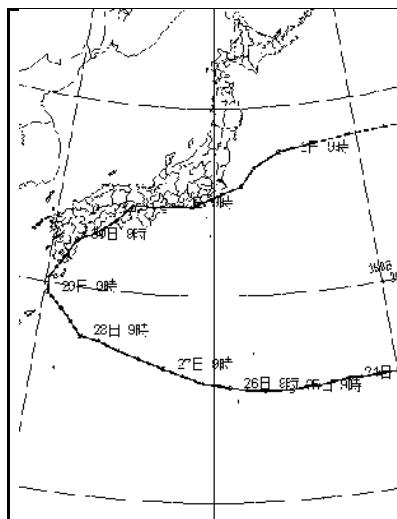
昭和36年9月の第2室戸台風



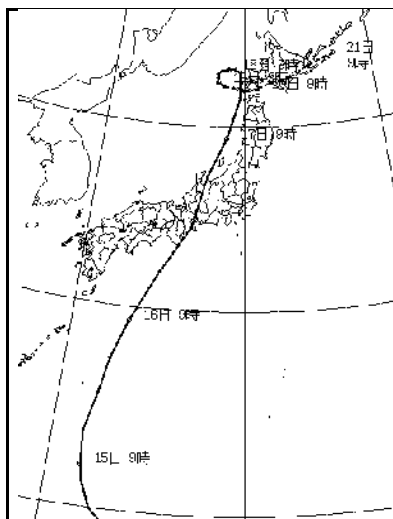
昭和37年7月の台風第7号



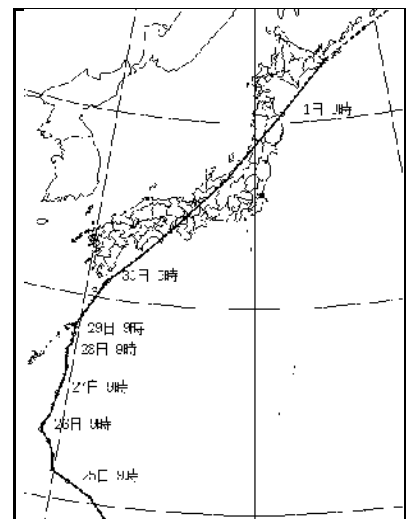
昭和37年8月の台風第14号



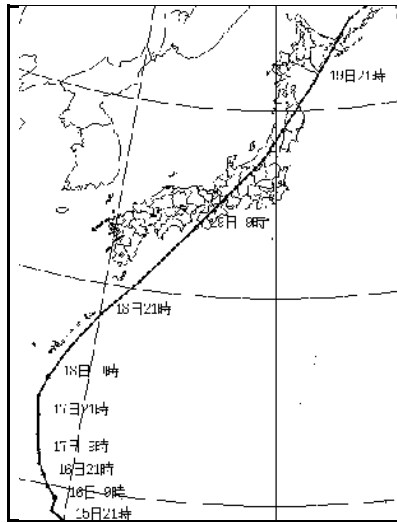
昭和46年8月の台風23号



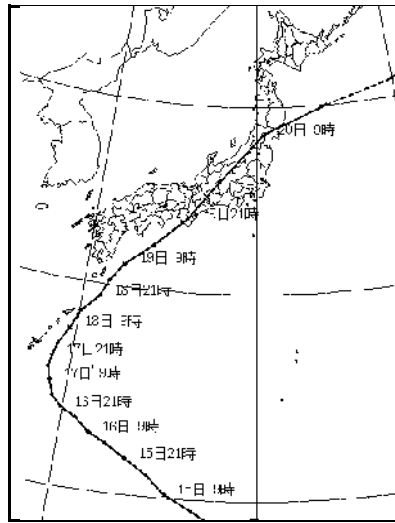
昭和47年9月の台風第20号



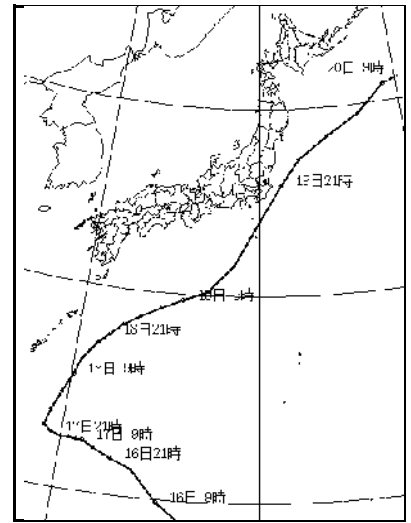
昭和54年9月の台風第16号



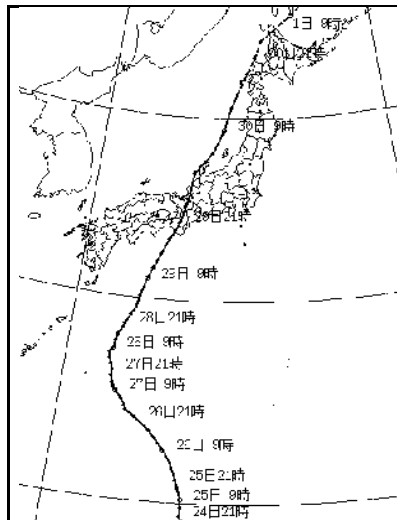
昭和54年10月の台風第20号



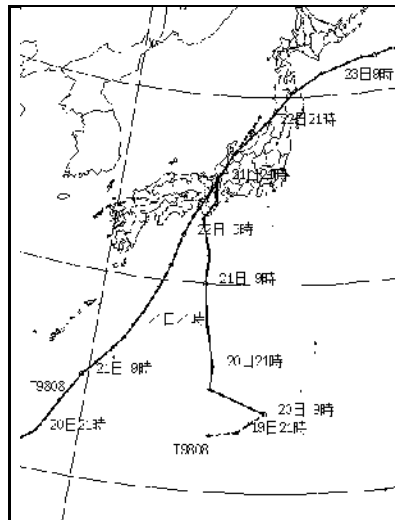
平成24年9月の台風第19号



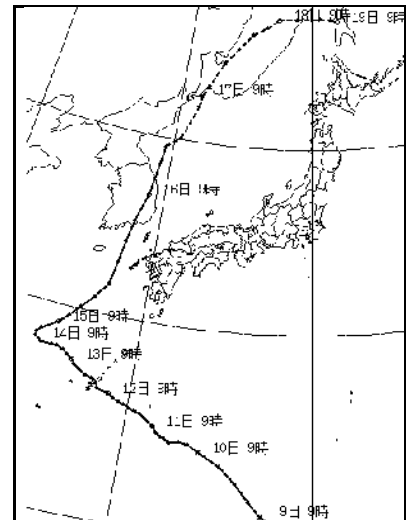
平成23年9月の台風第18号



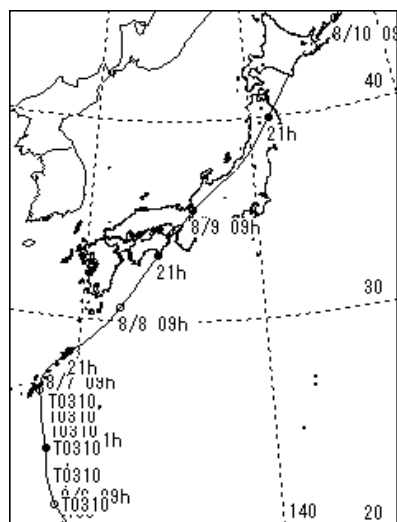
平成26年9月の台風第26号



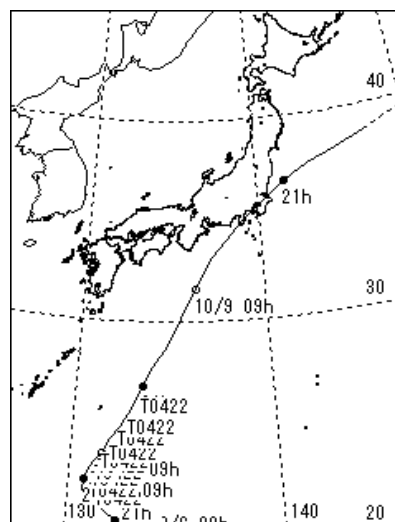
平成30年9月の台風第7・8号



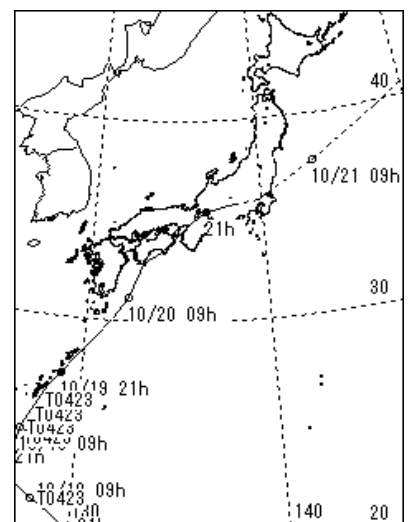
平成32年9月の台風第14号



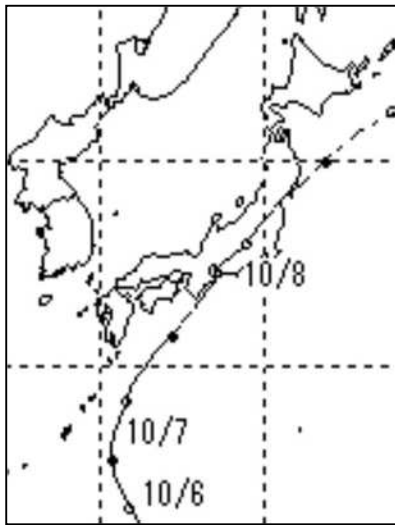
平成35年8月の台風第10号



平成36年10月の台風第22号



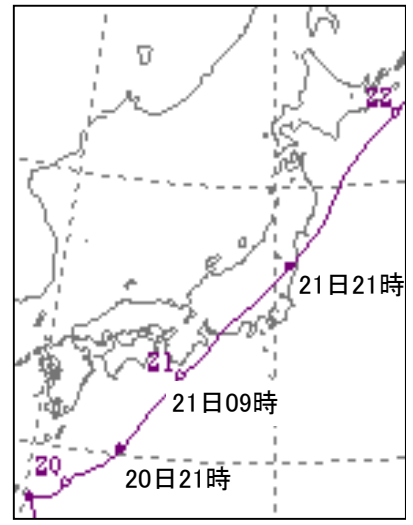
平成36年10月の台風第23号



平成21年10月の台風第18号



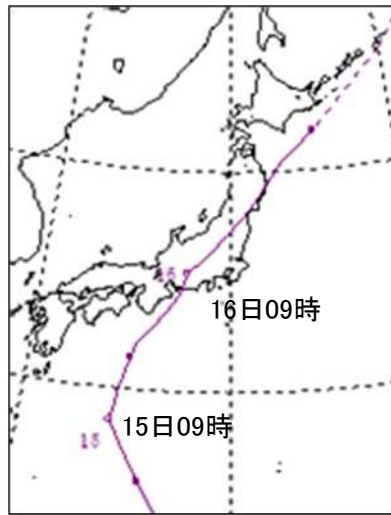
平成23年9月の台風第12号



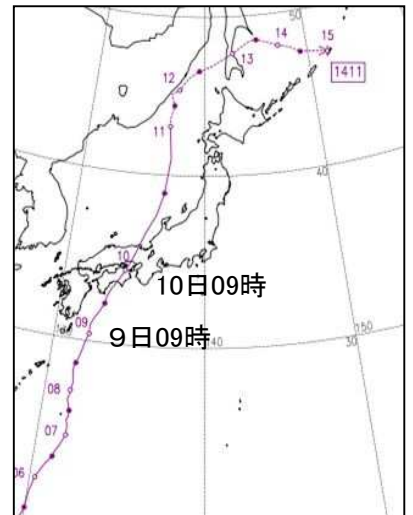
平成23年9月の台風第15号



平成24年6月の台風第4号



平成25年9月の台風第18号



平成26年8月の台風第11号



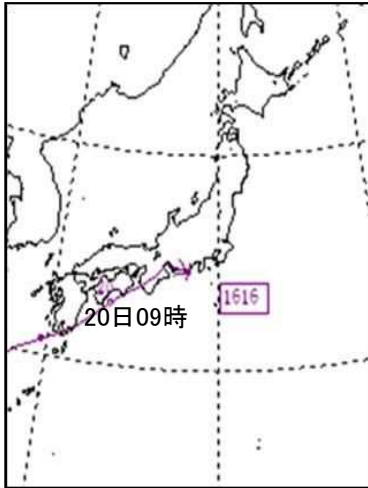
平成26年10月の台風第18号



平成26年10月の台風第19号



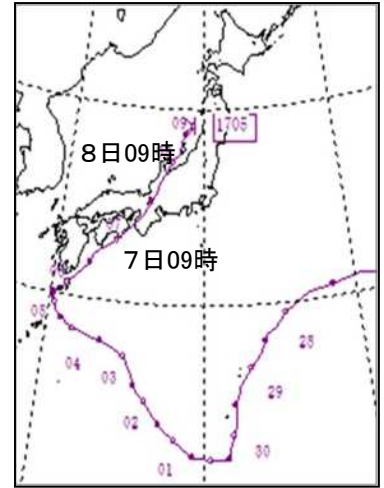
平成27年の9月の台風第18号



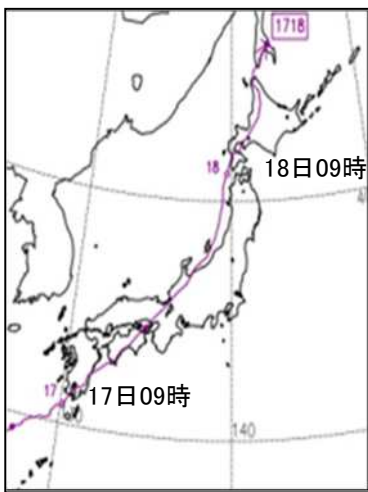
平成28年9月の台風第16号



平成29年7月の台風第3号



平成29年8月の台風第5号



平成29年8月の台風第18号



平成29年10月の台風第21号



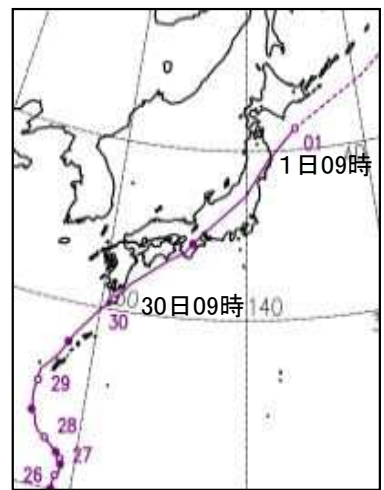
平成30年7月の台風第12号



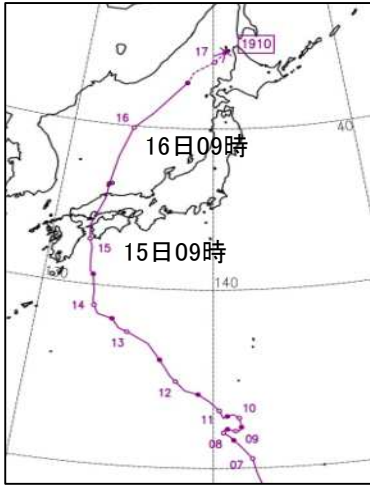
平成30年8月の台風第20号



平成30年9月の台風第21号



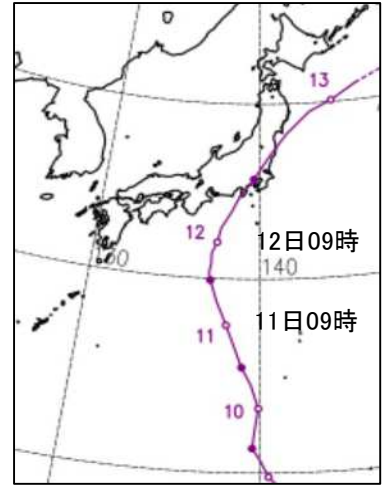
平成30年9月の台風第24号



令和元年8月の台風第10号



令和元年9月の令和元年房総半島台風(台風第15号)



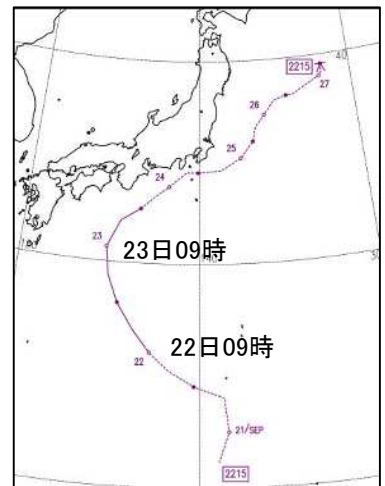
令和元年10月の令和元年東日本台風(台風第19号)



令和2年9月の台風第10号



令和4年9月の台風第14号



令和4年9月の台風第15号

愛知県内の過去の主な風水害

県防災安全局防災部災害対策課
「災害の記録」参照

年 月 日	種 別 (災害の要因)	名古屋の記録			被 害 の 概 要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風向	総降水量 (mm)	
T元.9.22～23	暴雨風	971.4	28.2SSE	102.9	②死者140名、負傷者180名、家屋全壊6,000棟
T8.9.16～17	暴雨風				②死者4名、家屋全壊40棟、浸水700棟
T10.9.25～26	暴雨風	986.7	18.3SE	43.9	②死者27名、負傷者22名
T14.8.14～15	大雨				②死者6名、負傷者3名、家屋全壊25棟、浸水20,000棟
T14.9.11	暴雨風	996.0	22.8SSE	186.8	②死者12名、負傷者3名、家屋全壊52棟、浸水20,000棟
T15.9.4	暴雨風	989.1	20.8NNW	52.9	②死者23名、負傷者70名、家屋全壊166棟、浸水1,400棟
S5.7.19	大雨				②死者13名、負傷者2名、家屋全壊13棟、浸水2,000棟
S7.7.1～2	大雨				②死者26名、負傷者9名、家屋全壊30棟、浸水2,700棟
S9.9.21	暴雨風(室戸台風)	975.9	32.9SSE	24.0	②死者8名、負傷者68名、家屋全壊85棟
S10.10.27	大雨				②死者1名、負傷者2名、浸水13,000棟
S11.10.2～3	暴風雨	984.6	12.7N	198.2	②死者2名、負傷者8名、家屋全壊4棟、浸水15,000棟
S13.7.3～5	大雨				②死者2名、家屋全壊6棟、浸水4,500棟
S19.10.7～8	暴風雨	975.3	3.7SSE	80.8	②死者5名、負傷者2名、家屋全壊95棟、浸水700棟
S20.9.18	暴雨風 (枕崎台風)	988.7	20.2SSE	40.3	②死者4名、負傷者8名、家屋全壊400棟、浸水600棟
S20.10.11	暴風雨 (阿久根台風)	997.1	14.0SSE	228.9	②死者1名、家屋全壊1棟、浸水6,000棟
S25.9.3	暴風雨 (ジェーン台風)	995.4	26.7SE	47.4	②死者6名、負傷者36名、家屋全壊40棟、浸水300棟
S27.6.23～24	暴風雨 (ダイナ台風)	991.3	13.7NNE	177.2	②死者1名、家屋全壊3棟、浸水6,800棟
S28.9.25	暴風雨・高潮 (台風13号)	970.0	22.6NNW	178.1	②死者72名、負傷者623名、家屋全壊6,769棟、浸水90,000棟
S29.7.30	大雨				②死者3名、負傷者1名、家屋全壊15棟、浸水6,870棟
S30.10.20	暴風雨 (台風26号)	989.7	20.8SSE	34.3	②死者3名、負傷者18名、家屋全壊65棟、半壊61棟、一部破損113棟、床上浸水14棟、床下浸水599棟
S32.8.7	大雨 (多治見大雨)				②死者33名、負傷者44名、家屋全壊88棟、半壊89棟、床上浸水3,547棟、床下浸水13,961棟
S33.8.25	暴風雨 (台風17号)	999.0	17.7SE	139.9	②死者3名、負傷者1名、家屋全壊9棟、半壊25棟、一部破損248棟、床上浸水116棟、床下浸水4,682棟
S34.8.14	大雨	993.5	13.4WNNW	234.0	②負傷者1名、家屋全壊1棟、半壊20棟、一部破損2棟、床上浸水14棟、床下浸水80,826棟

年月日	種別 (災害の要因)	名古屋の記録			被害の概要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風向	総降水量 (mm)	
S34.9.26	暴風雨・高潮 (伊勢湾台風)	958.5	37.0SSE	165.7	①台風と高潮による災害で伊勢湾を中心に県下全域の沿岸部に被害が集中した。 ②死者3,168名、行方不明92名、負傷者59,045名、家屋全壊23,334棟、流失3,194棟、半壊97,049棟、一部破損287,059棟、床上浸水53,560棟、床下浸水62,831棟 ③県下全域(沿岸部中心) ④3,224億円
S36.6.23～29	大雨 (36.6梅雨前線豪雨)			398 立田682	①集中豪雨による災害で尾張部を中心に河川の氾濫等の被害が発生した。 ②死者4名、負傷者13名、行方不明2名、家屋全壊29棟、流失2棟、半壊72棟、床上浸水7,969棟、床下浸水66,654棟 ③県下全域 ④111億円
S36.9.16	暴風雨 (第二室戸台風)	971.9	28.7SSE	96.4	①集中豪雨による災害で中小河川の氾濫・暴風雨による竜巻等の被害が発生した。 ②死者3名、負傷者146名、家屋全壊168棟、半壊515棟、床上浸水652棟、床下浸水8,868棟 ③尾張部 ④104億円
S37.6.30～7.5	大雨 (前線)			103 伊良湖236	①局地的集中豪雨による災害で中小河川の氾濫等の被害が発生した。 ②死者2名、負傷者1名、家屋全壊2棟、床上浸水1,605棟、床下浸水15,501棟 ③東三河、尾張部
S37.8.26	暴風雨 (台風14号)	996.5	23.3SSE	110	①風水害による災害で県下全域で被害が発生した。 ②死者1名、負傷者9名、家屋全壊26棟、半壊28棟、床上浸水177棟、床下浸水7,556棟 ③県下全域 ④42億円
S39.9.25	暴風雨 (台風20号)	992.8	22.0SSE	105.2	①雨による災害で県下全域で被害が発生した。 ②死者2名、負傷者10名、家屋全壊6棟、半壊12棟、床上浸水23棟、床下浸水2,298棟 ③県下全域(主として名古屋、尾張、海部、知多) ④26億円
S40.9.17	暴風雨 (台風24号)	970.2	17.0N	188.6	①雨による災害で平野部に被害が多く発生した。 ②死者1名、負傷者18名、家屋全壊12棟、半壊62棟、床上浸水1,728棟、床下浸水49,622棟 ③県下全域(主として名古屋、海部) ④93億円
S41.10.12	大雨 (東三河集中豪雨)			54 田原345	①集中豪雨による災害で東三河の平野部に中小河川の氾濫等の被害が発生した。 ②死者10名、負傷者14名、家屋全壊18棟、半壊11棟、床上浸水11棟、床下浸水20,747棟 ③東三河(豊橋、田原中心) ④42億円
S43.8.29	大雨 (台風10号)	991.5	15.7SSE	179 茶臼山587	①集中豪雨による災害で三河山間部に中小河川の氾濫、山(がけ)崩れ等の被害が発生した。 ②死者6名、負傷者15名、家屋全壊24棟、半壊24棟、一部破損45棟、床上浸水292棟、床下浸水4,314棟 ③奥三河(新城及び南・北設楽郡) ④59億円
S44.8.4～5	大雨 (台風7号)	990.6	14.8ESE	64 新城365.5	①集中豪雨による災害で三河山間部に中小河川の氾濫、山(がけ)崩れ等の被害が発生した。 ②死者3名、負傷者5名、家屋全壊10棟、半壊36棟、一部破損81棟、床上浸水661棟、床下浸水3,515棟 ③奥三河(新城、宝飯郡、南・北設楽郡) ④45億円
S45.7.29～30	集中豪雨	1,010.8	7.7ENE	123.5	②死者3名、負傷者4名、家屋全壊2棟、半壊7棟、床上浸水4,552棟、床下浸水37,946棟 ③尾張部 ④18億円
S46.8.30～31	大雨 (台風23号)	987.5	10.0E	321.5	②死者4名、負傷者15名、家屋全壊19棟、半壊127棟、一部破損228棟、床上浸水6,136棟、床下浸水59,160棟 ③県下全域 ④176億円

年月日	種別 (災害の要因)	名古屋の記録			被害の概要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風向	総降水量 (mm)	
S47.7.12～13	集中豪雨 (47.7豪雨台風6号)			289 猿投458	①集中豪雨による災害で西三河山間部に中小河川の氾濫、山(がけ)崩れ等の被害が発生した。 ②死者64名、行方不明4名、負傷者112名、家屋全壊271棟、半壊287棟、床上浸水2,075棟、床下浸水12,077棟 ③西三河(小原、藤岡、豊田、足助) ④302億円
S49.7.7	豪雨 (七夕豪雨台風8号)	1,008.20	6.7SE	65 新城323 東栄302 南知多285	①台風と梅雨前線による集中豪雨災害で、中小河川の氾濫、がけ崩れ、橋梁の流失等の被害が発生した。 ②死者3名、負傷者12名、家屋全壊16棟、半壊70棟、一部破損86棟、床上浸水1,820棟、床下浸水11,800棟 ③知多、東三河地域(豊橋、蒲郡、南知多他31市町村) ④195億円
S49.7.24～25	大雨			139.8 津島333 常滑315 一宮237	①集中豪雨による災害で尾張・海部・知多を中心に家屋の浸水被害が多数発生した。 ②死者1名、負傷者7名、床上浸水7,248棟、床下浸水74,035棟 ③県下全域 ④92億円
S51.9.8～13	集中豪雨 (51.9豪雨台風17号)	1,002.4	10.2SE	422 一宮682 南知多602	①集中豪雨による災害で尾張、海部、知多に中小河川の氾濫等の被害が発生した。 ②死者1名、負傷者37名、家屋全壊14棟、半壊437棟、一部破損461棟、床上浸水13,050棟、床下浸水102,677棟 ③尾張、海部、知多地域(59市町村) ④378億円
S54.9.24～25	豪雨			94 名古屋市港区 224(一時間雨量108)	①雷を伴った前線による局地的な豪雨災害で、家屋の浸水、道路・河川等に被害が発生した。 ②死者2名、床上浸水1,665棟、床下浸水33,351棟 ③県西部地域(名古屋、東海他18市町村) ④26億円
S54.9.28～10.1	暴風雨 (台風16号)	981.9 小牧978.2	17.7SE 伊 良湖21.3S	50 茶臼山170	①台風の通過による災害で家屋損壊、農水産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②死者1名、負傷者23名、家屋全壊2棟、半壊20棟、一部破損217棟、床上浸水9棟、床下浸水178棟 ③県全域 ④65億円
S54.10.18～19	暴風雨 (台風20号)	971.9 小牧969.4	14.2W 伊良湖 20.0S	80 作手282茶 臼山279鳳 来233	①台風の通過による災害で家屋損壊、農水産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②行方不明者1名、負傷者8名、家屋全壊4棟、半壊5棟、一部破損26棟、床上浸水39棟、床下浸水314棟 ③県全域 ④113億円
S57.8.1～3	暴風雨 (台風10号と低気圧)	975.1 伊良湖973.0	9.4SSW 伊 良湖21.1E	184.5 鳳来501 伊良湖444	①台風と低気圧による大雨に伴う災害で家屋損壊、農地農業用施設、農林水産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②負傷者9名、家屋全壊1棟、半壊4棟、一部破損91棟、床上浸水230棟、床下浸水2,777棟 ③県全域 ④131億円
S57.9.11～12	暴風雨 (台風18号)	984.1 伊 良湖980.5	10.3N 伊良湖 19.7NNW	134.0 伊良湖306.5	①台風の通過による災害で家屋損壊、農林産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②死者1名、負傷者1名、家屋半壊1棟、一部破損4棟、床上浸水7棟、床下浸水324棟 ③主として県東部 ④23億円
S58.8.16～17	暴風雨 (台風5号)	982.0 伊 良湖974.9	7.2WNW 伊良湖 19.0ENE	100 豊橋419	①台風の通過による災害で家屋損壊、農林産物、公共土木施設等に被害が発生した。 ②負傷者1名、家屋全壊1棟、半壊1棟、一部破損3棟、床上浸水33棟、床下浸水356棟 ③主として県東部 ④約13億円
S58.9.27～28	暴風雨 (台風10号)	992.2	9.5N 伊良湖 11.2SSE	234 小原291 茶臼山305	①台風の通過、特に豪雨による災害で家屋損壊、農水産物、公共土木施設、農林水産業施設、農水産物等に被害が発生した。 ②死者5名、負傷者1名、家屋全壊2棟、半壊1棟、一部破損25棟、床上浸水762棟、床下浸水16,974棟 ③主として県西部④約28億円

年 月 日	種 別 (災害の要因)	名古屋の記録			被 害 の 概 要 ①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
		最低気圧 (hPa)	最大風速 (m/s) 風向	総降水量 (mm)	
H元.9.2～4	大雨			132 茶臼山325	①低気圧に伴う寒冷前線による災害 ②死者1名、負傷者3名、家屋全壊1棟、一部破損2棟、床上浸水3棟、床下浸水139棟 ③県全域 ④約24億円
H元.9.19～20	台風22号			47 茶臼山295	①台風の通過、特に東加茂郡を中心とした豪雨による土砂災害により家屋損壊、農水産物、公共土木施設、農林水産業施設等に被害が発生した。 ②死者2名、負傷者1名、家屋全壊18棟、半壊11棟、一部破損9棟、床上浸水121棟、床下浸水134棟 ③県全域 ④約92億円
H2.9.19～20	台風19号	972.5 伊良湖976.9	20.1SSE 伊良湖26.2S	95 作手254	①台風の通過による災害で、特に農業用施設、農産物の被害が著しかった。 ②負傷者29名、家屋全壊2棟、半壊28棟、一部破損2,297棟、床上浸水67棟、床下浸水1,408棟 ③県全域 ④約153億円

年月日	種別 (災害の要因)	項目	観測点	総降水量 ・風速	被害の概要
					①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
H3.9.18～19	大雨 (台風第18号・前線)	総降水量 1時間降水量	名古屋 名古屋 名古屋 名古屋	242mm 316mm 57mm 55mm 48mm	①台風18号の接近に伴い、本州南岸の秋雨前線の活動が活発化した。このため、名古屋市3区(北・緑・天白)及び春日井市では、災害救助法が適用された。 ②死者2名、軽傷者1名、住家の全壊2棟、一部損壊9棟。床下浸水3,713棟、床下浸水12,131棟 ③県全域 ④約60億円
H6.9.29～30	暴風雨・竜巻 (台風第26号)	風速 瞬間風速 総降水量 1時間降水量	名古屋 名古屋 作手 作手	SSE19.4m/s SSE36.7m/s 235mm 48mm	①台風の他、竜巻が発生した。 ②負傷者37名、住家の全壊8棟、半壊113棟、一部損壊981棟、床上浸水137棟、床下浸水456棟 ③県内全域 ④約53億円
H10.9.21～23	暴風雨 (台風第7・8号)	風速 瞬間風速 総降水量 1時間降水量	名古屋 名古屋 白山市 作手	SSE21.5m/s SSE42.6m/s 329mm 63mm	①台風8号が21日、第7号が22日と続いて上陸。8号は雨、7号は風による被害が大きかった。交通網が大混乱し、農業被害も大きかった。 ②死者3名、負傷者151名、住家の全壊8棟、半壊35棟、一部損壊661棟 ③県内全域 ④約33億円
H11.9.24～26	竜巻 (台風第18号)	風速 瞬間風速	名古屋 伊良湖 名古屋 伊良湖	SSE11.2m/s S11.0m/s S23m/s S20.5m/s	①台風18号の外側を取り巻く積乱雲が、東海地方の南海上から県沿岸にかかり、4個の竜巻が相次いで発生した。このため、豊橋市では、被災者生活再建支援法(法律第66号)が、平成10年11月6日施行されて以来、本県で初めて同法の適用となった。 ②負傷者453名、住家の全壊41棟、半壊311棟、一部損壊1,052棟。 ③主として県東部 ④約21億円
H12.9.11～12	大雨 (台風第14号・前線) 東海豪雨	総降水量 1時間降水量	名古屋 東海 蟹江 一宮 武 蒲郡 名古屋 東海 蟹江 一宮 武 蒲郡	566.5mm 589mm 365mm 293mm 467mm 249mm 97mm 114mm 78mm 54mm 70mm 55mm	①秋雨前線に台風第14号からの暖かく湿った空気が多量に流れ込んだため、前線の活動が活発となり、愛知県を中心とした東海地方で記録的な大雨となった。このため、23の市町村で避難勧告・指示を発令し、63,000人以上が避難され、21市町村で、災害救助法及び被災者生活再建支援法の適用がされた。また、この災害が、激甚災害に指定され、中小企業支援措置及び農地・農業施設用支援並びに林道の災害復旧事業支援措置がなされ、旭町、稲武町が局地激甚災害(公共土木施設)の指定を受けた。 ②新川をはじめ県内河川の破堤20箇所、越水319箇所。死者7名、負傷者107名、住家の全壊18棟、半壊154棟、一部損壊147棟、床上浸水22,078棟、床下浸水39,728棟 ③県内全域 ④約2,800億円
H13.8.21～22	暴風雨 台風第11号	総降水量 1時間降水量	茶臼山 作手 岡崎 茶臼山 南知色 鳳来	330mm 313mm 255mm 34mm 34mm 33mm 32mm	①台風の通過による災害 ②死者1名、負傷者1名、床上浸水3棟、床下浸水165棟 ③県内全域 ④約3億円
H15.8.8～9	暴風雨 台風第10号	総降水量 瞬間風速	茶臼山 作手 名古屋	382mm 336mm ESE28m/s	①台風の通過による災害 ②負傷者5名、一部損壊5棟、床上浸水1棟、床下浸水15棟 ③県内全域 ④約24億円
H16.6.21	暴風雨 台風第6号	総降水量 瞬間風速	茶臼山 名古屋 伊良湖	284mm 34m/s 30m/s	①台風の通過による災害 ②負傷者27名、半壊1棟、一部損壊16棟、床上浸水1棟、床下浸水3棟 ③県内全域 ④約13億円
H16.10.20～21	暴風雨 台風第23号	総降水量 瞬間風速	茶臼山 名古屋 伊良湖	265mm S33m/s SE35m/s	①台風の通過による災害 ②死者1名、負傷者18名、一部損壊41棟、床上浸水21棟、床下浸水160棟 ③県内全域 ④約17億円
H20.8.28～30	大雨 8月末豪雨	総降水量 1時間降水量	岡崎 蒲郡 豊橋 一宮 名古屋 岡崎 一宮 豊橋 蒲郡 名古屋	447.5mm 365mm 351.5mm 272mm 237mm 146.5mm 104mm 62.5mm 58.5mm 55mm	①停滞していた前線に非常に湿った空気が流れ込んだため、前線の活動が活発となり、県内各地で記録的な大雨となった。このため、名古屋市及び岡崎市で、災害救助法及び被災者生活再建支援法の適用がされた。 ②広田川が破堤。死者2名、負傷者5名、住家の全壊5棟、半壊3棟、一部損壊29棟、床上浸水2,480棟、床下浸水14,106棟 ③県内全域 ④約107億円

年 月 日	種別 (災害の要因)	項目	観測点	総降水量 ・風速	被害の概要
					①災害の特徴 ②被害の程度 ③発生場所 ④被害額
H21.10.7～8	暴風雨 台風第18号	総降水量 瞬間風速	東 海 名 古 屋 伊 良 湖	206mm 29.9m/s 39.9m/s	①台風第18号が知多半島付近に上陸し、特に農業用施設、農産物の被害が著しかった。 ②負傷者19名、家屋全壊6棟、半壊41棟、一部損壊2,092棟、床上浸水246棟、床下浸水1,235棟 ③県内全域 ④約134億円
H23.9.20～21	暴風雨 台風第15号	総降水量 瞬間風速	名 古 屋 茶 臼 山 阿 蔵 名 古 屋 伊 良 湖	274mm 367mm 383.5mm 22m/s 33m/s	①奄美大島近海で迷走後に勢力を強め、21日14時頃に浜松市付近に上陸。名古屋市では100万人を超える市民に対し避難勧告が出された。 ②死者4名、負傷者8名、家屋一部損壊69棟、床上浸水239棟、床下浸水572棟 ③県内全域 ④約30億円
H24.6.19	暴風雨 台風第15号	総降水量 瞬間風速	名 古 屋 阿 蔵 名 古 屋 伊 良 湖	53mm 239mm 18.8m/s 27.7m/s	①19日17時過ぎに和歌山県南部に上陸した台風第4号は、その後紀伊半島の東岸を北東に進み、伊勢湾を通過し、20時過ぎに愛知県東部に再上陸した。豊田市阿蔵では1時間降水量65.5mmの非常に激しい雨を観測するなど、東部を中心に大雨となった。 ②負傷者6名、家屋一部損壊8棟、床下浸水4棟 ③県内全域 ④約5億円

土石流

県建設局砂防課

山腹が崩壊して生じた土石等又は溪流の土石等が水と一体となって流下する自然現象をいう。
水の流れというよりむしろ流水が樹木、岩塊、礫を混入し、あたかもかゆ状になって混流する土石の流れであって、その決壊力は非常に大きく溪流河川を荒廃させ、沿岸の人家、田畑、公共施設等を埋没させ人命を奪っている。

愛知県では「47. 7 豪雨」の際、西三河地方に多数発生し、32 名という多数の犠牲者を出した。

主な土石流災害

発生日時	発生場所	異常気象	発生までの連続雨量(mm)	発生時の時間雨量(mm)	被害
S43. 8. 29 19:00	大入川上流 (豊根村)	台風 10 号	487. 0 (旧豊根分所)	80. 0	死者 6 名 全壊 24 棟
S44. 8. 5 2:00	大千瀬川 (東栄町)	台風 7 号	170. 0 (旧東栄分所)	63. 0	死者 2 名 全壊 10 棟
S47. 7. 13 1:00	矢作川流域 足助町・旭町	集中豪雨 (梅雨前線)	208. 5 (旧旭分所)	42. 5	全壊 3 棟
S47. 7. 13 1:00	矢作川中流域 (藤岡町)	〃	292. 5 (旧藤岡分所)	68. 0	死者 15 名 全壊 3 棟
S47. 7. 13 1:20	矢作川中流域 (小原村)	〃	303. 0 (役場)	77. 0	死者 17 名 全壊 15 棟
H1. 9. 3 18:15	坂宇場上流 (豊根村)	集中豪雨	430. 0 (設楽出張所豊根詰所)	18. 0	死者 1 名 全壊 1 棟
H1. 9. 20 1:30	矢作川上流域 (旭町)	台風 22 号	206. 0 (足助支所旭詰所)	95. 0	死者 1 名 全壊 18 棟
H12. 9. 12 7:30	矢作川上流域 (稲武町)	集中豪雨 (東海豪雨)	456. 0 (役場)	5. 0	全壊 2 棟
R5. 6. 2 21:00	御津川流域 (豊川市)	集中豪雨 (梅雨前線)	348. 0 (御油観測局)	39. 0	全壊 1 棟

山崩れ・がけ崩れ

県農林基盤局林務部森林保全課、県建設局砂防課

大雨や台風、地震などにより斜面の土砂や岩石が崩れ落ちる現象をいい、大規模な山崩れから局地的ながけ崩れまでである。これらは、多くの場合、雨水を主因として突発的に起こり、瞬時に崩れ落ちるので、逃げ遅れる人も多く、また、破壊力もあるので、死者の割合が高いのが特徴である。

県では、平成 12 年 9 月 11 日から 12 日にかけての秋雨前線による集中豪雨(東海豪雨)による山崩れ・がけ崩れにより、全壊 4 棟、死者 3 名の被害となった。

2 火 災

県防災安全局防災部消防保安課

過去10年間の火災発生状況

種別 年別	建 物	林 野	車 両	船 舶	航 空 機	そ の 他	計 (件)	損 害 額 (千 円)	原 因 別					被 害					
									失 火	放 火 (含 む 疑 い)	天 災	自 然 発 火	そ の 他 ・ 不 明	焼 損 棟 数	り 災 世 帯 数	建 物 焼 損 面 積 ㎡	林 野 焼 損 面 積 a	死 者	負 傷 者
平成24年	1,314	46	299	1	0	964	2,624	4,366,571	1,655	624	21	47	277	1,617	990	37,794	235	72	343
平成25年	1,436	86	337	5	0	1,211	3,075	4,895,895	1,917	775	2	51	330	1,814	1,100	53,983	1,325	72	355
平成26年	1,245	44	264	5	1	992	2,551	6,790,488	1,643	594	4	41	269	1,657	1,030	62,468	385	63	388
平成27年	1,138	23	232	7	0	622	2,022	3,027,384	1,349	405	3	40	225	1,534	1,022	41,113	102	75	333
平成28年	1,086	28	240	4	0	684	2,042	4,158,992	1,333	396	6	39	268	1,455	893	34,828	156	57	286
平成29年	1,075	36	226	3	0	786	2,126	4,129,270	773	153	4	29	116	1,432	898	43,804	502	80	310
平成30年	1,118	37	228	5	0	694	2,082	4,978,328	1,427	328	4	62	261	1,473	980	52,120	278	70	287
令和元年	1,102	40	220	1	0	646	2,009	4,292,689	1,388	332	7	51	231	1,453	876	37,939	647	65	303
令和2年	976	27	231	1	0	635	1,870	5,652,100	1,274	284	5	52	255	1,363	889	53,644	246	60	265
令和3年	953	28	184	7	0	607	1,779	4,486,347	1,206	270	8	35	260	1,265	908	37,507	317	58	295

3 地 震

愛知県内の過去の主な地震

県防災安全局防災部災害対策課
「愛知県災害誌」より

年	地震名	マグニチュード	県内震度	愛知県内の被害状況
1498	明応地震	8.6	不明	津波に襲われた区域は、紀伊半島から房総半島におよび、三重・静岡県（伊勢・志摩・遠江）沿岸では、大津波により大災害をこうむった。愛知県内の被害は不明。
1586	天正地震	7.9	不明	近畿から東海道にかけて大地震。家屋の全半壊400戸、死傷者多数。愛知県内については、地震後、飢饉がおこり、疫死者が多くであった。
1707	宝永地震	8.4	不明	死者、建物倒壊、堤防破損ともに多く、渥美半島では津波の被害が大きかった。
1854	安政地震	8.4	不明	三河湾の沿岸に津波が来襲し被害をうけた。死者約30人、家屋倒壊約1,000戸。
1891	濃尾地震	8.4	不明	尾張地方に甚大な被害をもたらした。濃尾平野の広範囲で液状化現象がみられた。死者2,459人。住宅全半壊58,462戸。
1944	東南海地震	7.9	V	主として三河湾沿岸と、伊勢湾沿岸で、一般に埋め立て地や沖積層の地帯で被害が大きかった。被害の詳細は戦時中のため不明。
1945	三河地震	6.8	IV	西三河地方の矢作川下流域を中心に被害が大きかった。死者1,961人、住家全半壊1,6881戸。

※ 昭和2年以降のマグニチュードは、平成15年9月25日に算出方法の改訂が行われたため、以前の資料から変更になったものがある。

愛知県内で震度4以上を観測した地震(昭和元年～令和4年)

名古屋地方気象台

震度	年 月 日	時 分	北 緯	東 経	震 央 地 名	マグニチュード (地震の規模)
4	昭和 2(1927)年 3 月 7 日	18 時 27 分	35 度 37.9 分	134 度 55.8 分	京都府北部(北丹後地震)	7.3
4	2(1927)年 3 月 7 日	18 時 44 分	35 度 47.0 分	135 度 03.2 分	京都府沖	6.3
4	5(1930)年 11 月 26 日	4 時 02 分	35 度 02.5 分	138 度 58.4 分	静岡県伊豆地方(北伊豆地震)	7.3
5	19(1944)年 12 月 7 日	13 時 35 分	33 度 34.4 分	136 度 10.5 分	三重県南東沖(東南海地震)	7.9
4	20(1945)年 1 月 13 日	3 時 38 分	34 度 42.1 分	137 度 06.8 分	三河湾(三河地震)	6.8
4	20(1945)年 1 月 13 日	3 時 40 分	35 度 10.0 分	136 度 58.0 分	詳細不明	—
4	21(1946)年 12 月 21 日	4 時 19 分	32 度 56.1 分	135 度 50.9 分	和歌山県南方沖(南海地震)	8.0
4	23(1948)年 6 月 15 日	20 時 44 分	33 度 42.5 分	135 度 17.1 分	紀伊水道	6.7
4	23(1948)年 6 月 28 日	16 時 13 分	36 度 10.3 分	136 度 17.4 分	福井県嶺北(福井地震)	7.1
4	27(1952)年 7 月 18 日	1 時 9 分	34 度 27.2 分	135 度 46.4 分	奈良県	6.7
4	36(1961)年 8 月 19 日	14 時 33 分	36 度 06.7 分	136 度 42.0 分	石川県加賀地方	7.0
4	38(1963)年 3 月 27 日	6 時 34 分	35 度 48.9 分	135 度 47.5 分	若狭湾「越前岬沖地震」	6.9
4	44(1969)年 9 月 9 日	14 時 15 分	35 度 46.6 分	137 度 04.6 分	岐阜県美濃中西部	6.6
4	46(1971)年 1 月 5 日	6 時 8 分	34 度 29.4 分	137 度 09.5 分	遠州灘	6.1
4	58(1983)年 3 月 16 日	2 時 27 分	34 度 47.6 分	137 度 36.7 分	静岡県西部	5.7
5強	平成 9(1997)年 3 月 16 日	14 時 51 分	34 度 55.6 分	137 度 31.5 分	愛知県東部	5.9
4	10(1998)年 4 月 22 日	20 時 32 分	35 度 10.5 分	136 度 33.7 分	三重県北部	5.5
4	11(1999)年 8 月 21 日	5 時 33 分	34 度 01.8 分	135 度 28.2 分	和歌山県北部	5.6
4	11(1999)年 11 月 29 日	21 時 34 分	35 度 06.7 分	137 度 01.5 分	愛知県西部	4.8
5弱	12(2000)年 10 月 31 日	1 時 42 分	34 度 17.9 分	136 度 19.2 分	三重県南部	5.7
4	13(2001)年 2 月 23 日	7 時 23 分	34 度 47.6 分	137 度 32.9 分	静岡県西部	5.0
4	13(2001)年 4 月 3 日	23 時 57 分	35 度 01.4 分	138 度 05.6 分	静岡県中部	5.3
4	13(2001)年 9 月 27 日	18 時 14 分	34 度 52.0 分	137 度 07.5 分	愛知県西部	4.3
4	15(2003)年 7 月 9 日	2 時 14 分	34 度 54.6 分	136 度 50.7 分	愛知県西部	4.1
4	16(2004)年 9 月 5 日	19 時 07 分	33 度 01.9 分	136 度 47.8 分	三重県南東沖	7.1
4	16(2004)年 9 月 5 日	23 時 57 分	33 度 08.2 分	137 度 08.4 分	三重県南東沖	7.4
4	17(2005)年 1 月 9 日	18 時 59 分	35 度 18.7 分	136 度 51.0 分	愛知県西部	4.7
4	17(2005)年 12 月 24 日	11 時 01 分	35 度 13.8 分	136 度 50.4 分	愛知県西部	4.8
4	21(2009)年 8 月 11 日	5 時 07 分	34 度 47.1 分	138 度 29.9 分	駿河湾	6.5
4	23(2011)年 3 月 11 日	14 時 46 分	38 度 06.2 分	142 度 51.6 分	三陸沖 「平成23年(2011)年東北地方太平洋沖地震」	9.0
4	23(2011)年 12 月 14 日	13 時 01 分	35 度 21.3 分	137 度 14.6 分	岐阜県美濃東部	5.1
4	25(2013)年 8 月 3 日	9 時 56 分	34 度 38.5 分	137 度 31.9 分	遠州灘	4.9
4	27(2015)年 3 月 4 日	0 時 04 分	35 度 20.6 分	136 度 48.2 分	愛知県西部	4.6
4	30(2018)年 4 月 14 日	15 時 13 分	34 度 49.4 分	137 度 07.6 分	愛知県西部	4.5
4	30(2018)年 6 月 18 日	7 時 58 分	34 度 50.6 分	135 度 37.3 分	大阪府北部	6.1
4	令和 2(2020)年 9 月 27 日	13 時 13 分	35 度 04.8 分	137 度 47.1 分	静岡県西部	5.1
4	令和 4(2022)年 4 月 7 日	09 時 30 分	34 度 53.7 分	137 度 29.9 分	愛知県東部	4.7

(注1) 震度の値は県内の最大震度を示す。なお、平成 8 年以前は名古屋地方気象台および伊良湖測候所での体感による震度観測のみ、平成 8 年～平成 9 年 11 月 9 日まで気象庁震度観測点が順次追加され、平成 9 年 11 月 10 日からは、地方公共団体等の震度観測点等が追加され、現在と同等数となった。

(注2) 「震度 5」および「震度 6」は、平成 8 年 10 月から階級を分けて、それぞれ「震度 5 弱」、「震度 5 強」および「震度 6 弱」、「震度 6 強」となった。

(注3) マグニチュードは、平成 15 年 9 月 25 日に算出方法の改訂が行われたため、以前の資料から変更になったものがある。

(注4) 震央地名は、平成 18 年 10 月 2 日から海域の震央地名を一部変更したことにより、以前の資料から変更になったものがある。

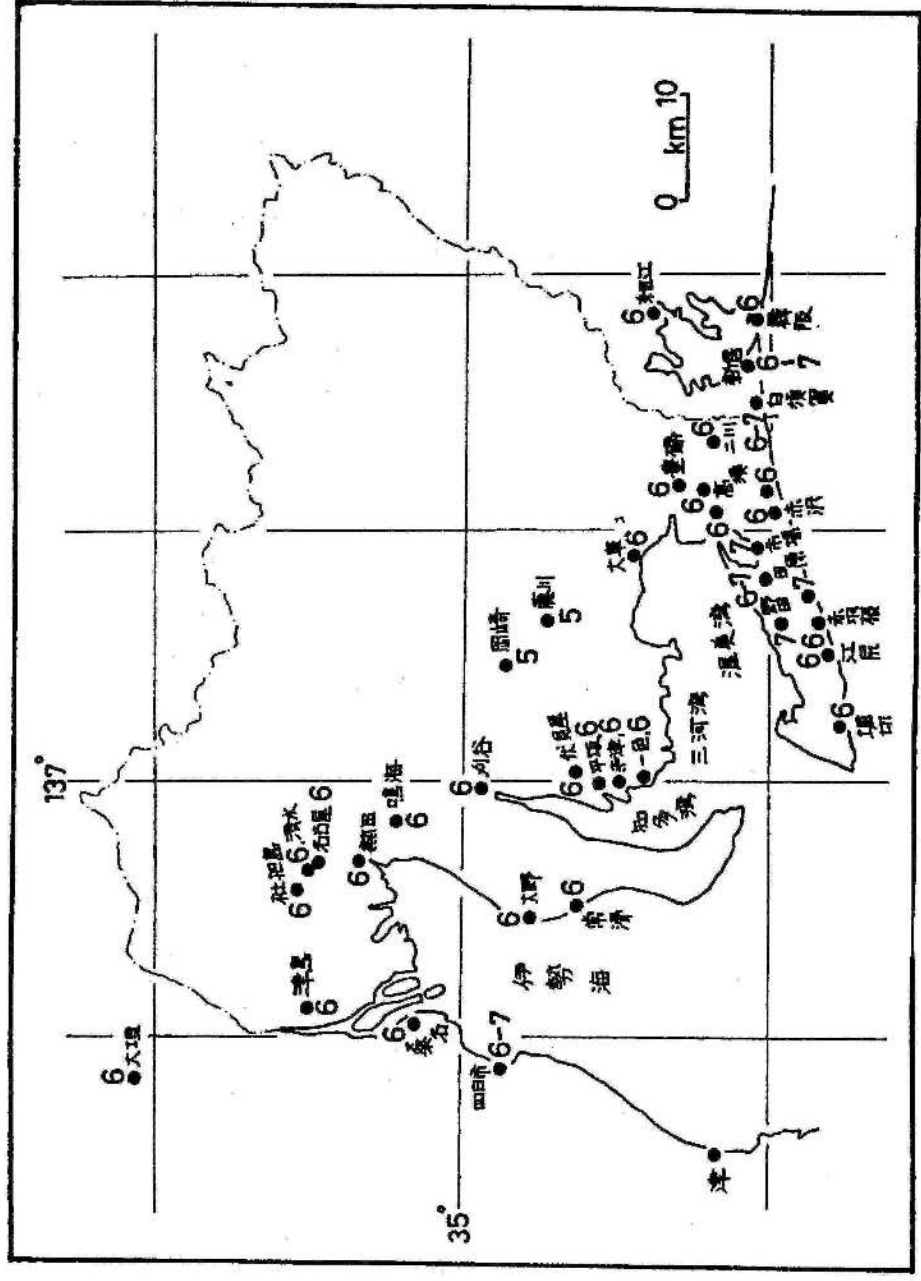
(注5) 上記資料は、「地震・火山月報(カタログ編)」によった。

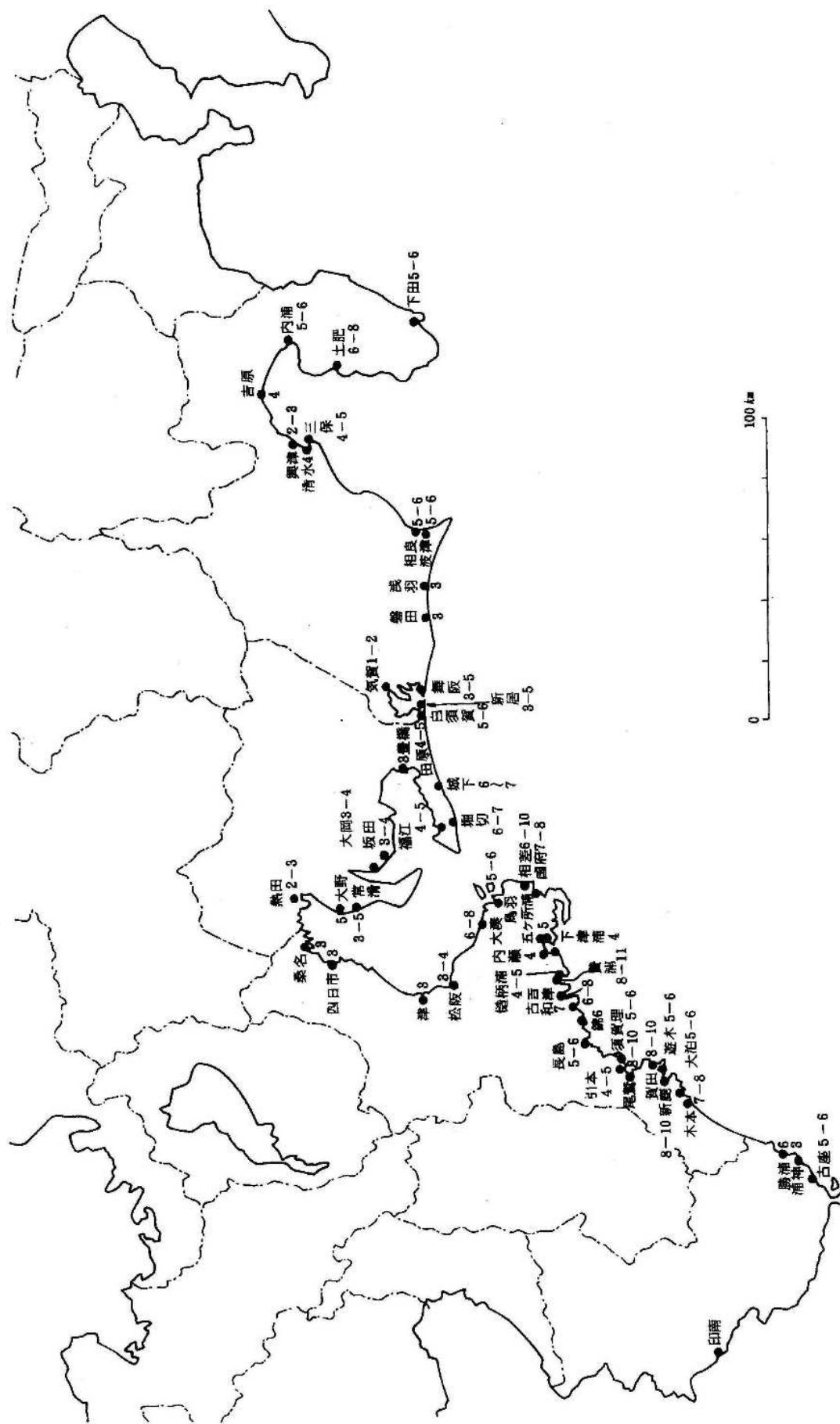
(注6) 震央地名の()は「新編 日本被害地震総覧[増補改訂版]」によった。「」は気象庁の命名地震を示した。

主要地震の震度分布図・津波の高さ分布図

(飯田汲事名古屋大学名誉教授作成)

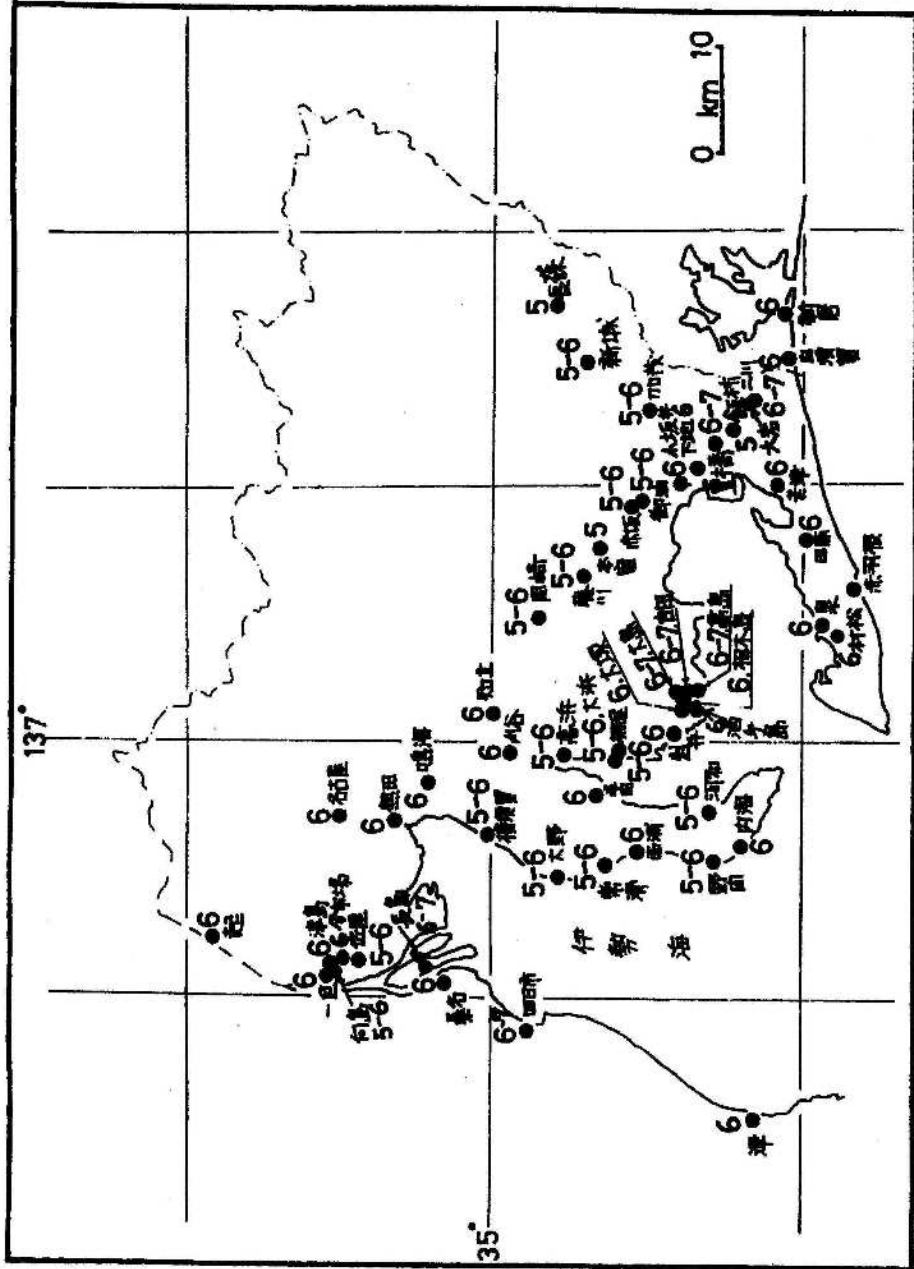
1707年 宝永地震



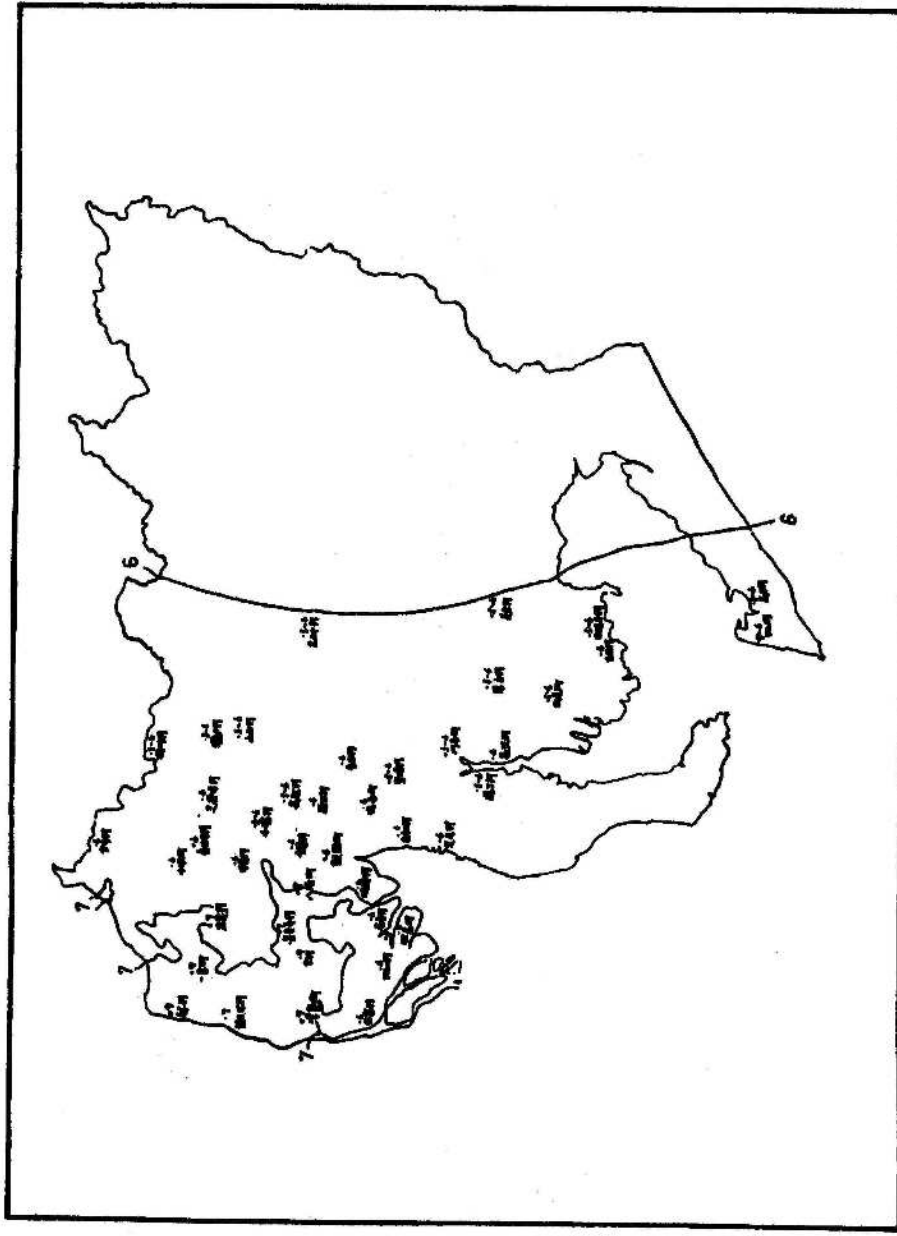


宝永地震の津波の高さ分布図 単位 m

1854年 安政地震

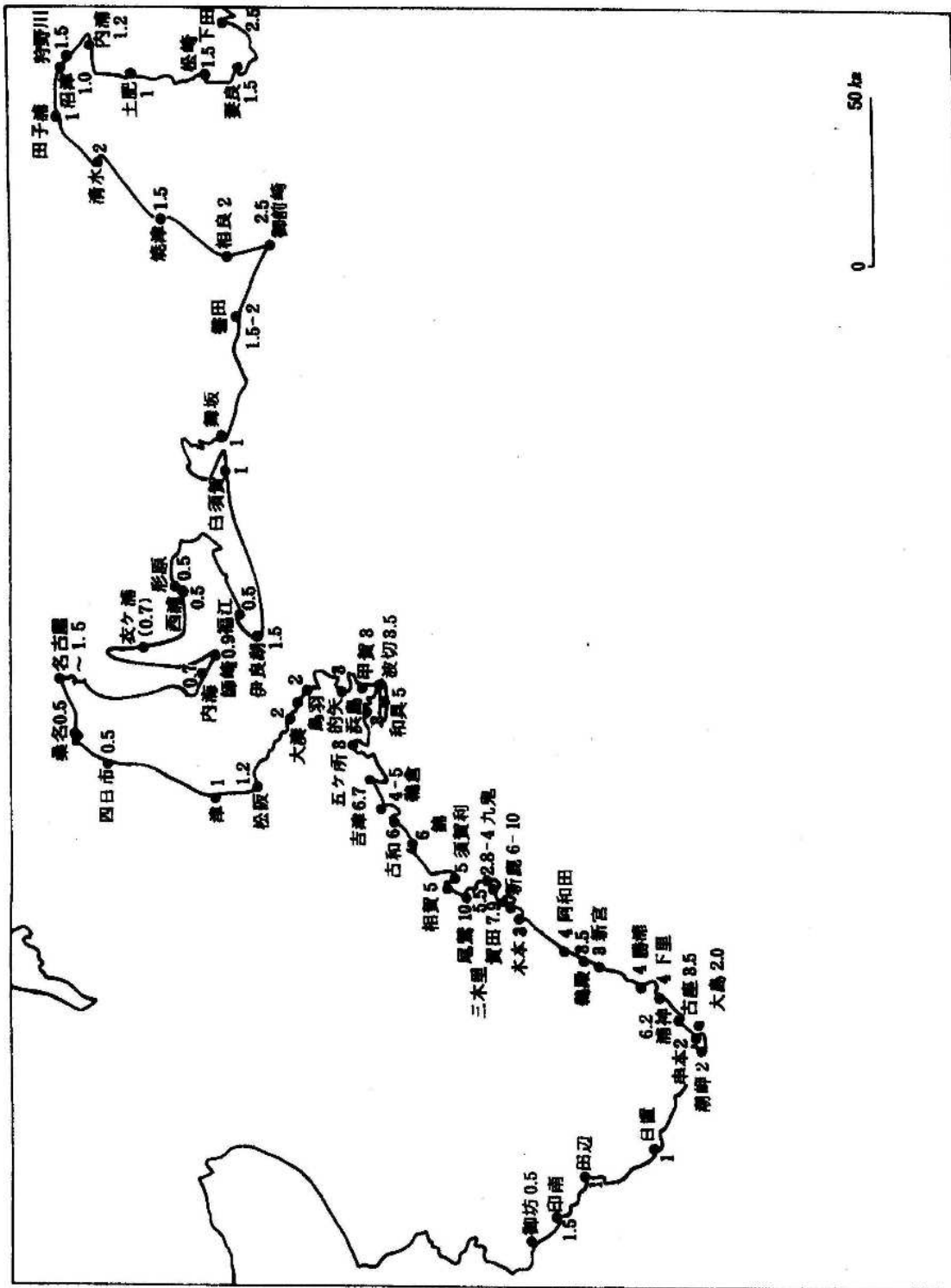


1891年 濃尾地震



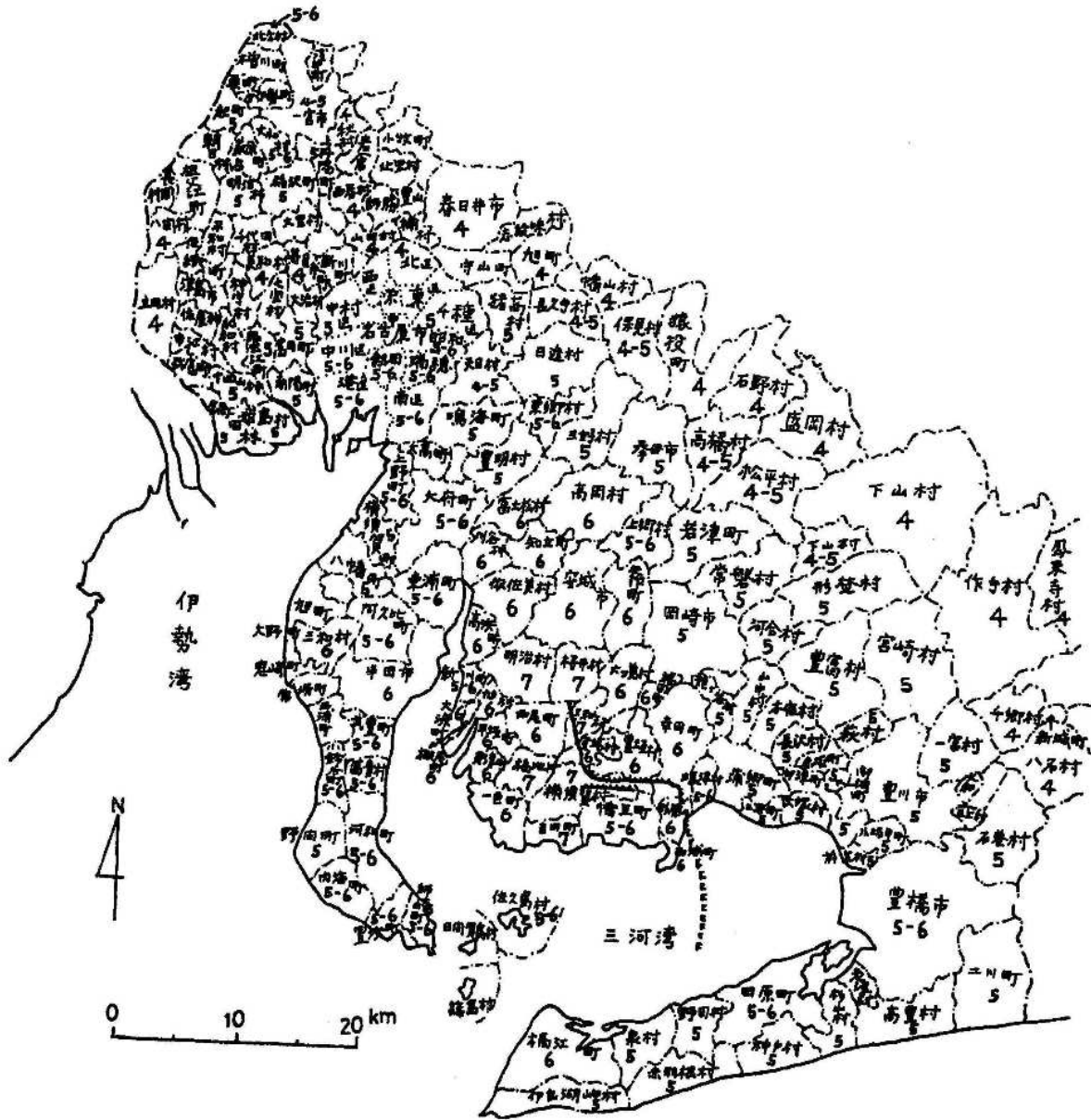
1944年 東南海地震





東南海地震の津波の波高分布 単位 m

1945年 三河地震



4 特殊災害

愛知県内の過去の主な特殊災害の事例

県防災安全局防災部災害対策課
(「災害の記録」より抜粋)

(1) 大府市薬品倉庫火災

ア 日 時

- (ア) 推定出火日時 昭和55年10月1日 12時00分頃
- (イ) 覚知期間 " 12時13分
- (ウ) 覚知方法 火災報知専用電話 (119)
- (エ) 火勢鎮圧 昭和55年10月2日 7時00分
- (オ) 鎮 火 " 7時00分

イ 場 所

- (ア) 所在地 大府市大府町中原26-1(工業地域)
- (イ) 名 称 丸全昭和運輸(株)東海倉庫営業所

ウ 出火箇所 A棟-3号 入り口南側6m軒下付近

エ 気象状況(観測所:大府市大府町雨兼 31-1 大府市消防署)

- (ア) 天気 快晴 (イ) 風向 北西 (ウ) 風速 2m/sec (エ) 気温 26℃
- (オ) 湿度 37% (カ) 実効湿度 67.8% (キ) 火災警報発令有無 無

オ 被害状況

- (ア) 建物焼損
A-2棟 半焼、A-3棟 全焼、A-4棟 全焼、雨天荷役場 半焼
- (イ) 人的被害
死者0名、負傷者3名(消防職団員軽傷)

(2) 中華航空機墜落事故

ア 日 時

- (カ) 事故発生 平成6年4月26日 20時16分頃
- (キ) 覚知時刻 平成6年4月26日 20時17分
- (ク) 覚知方法 自己覚知(春日井市消防署西出張所)
- (ケ) 鎮火時刻 平成6年4月26日21時48分(春日井消防本部)

イ 場 所

- (ア) 所在地 春日井市宗法町字宗法95番地
- (イ) 名 称 名古屋空港滑走路34末端東側、誘導路E-1付近

ウ 気象状況

- (ア) 天気 晴れ (イ) 風向 西 (ウ) 風速 3.8m/sec (エ) 視界 約20km

エ 事故航空機の概要

- (ア) 航空会社及び機体 中華航空 エアバスA300-600R
- (イ) 飛行ルート 台北発名古屋行き(到着予定時刻20時20分)
- (ウ) 搭乗員 総員271名

オ 死傷者数

- 死 者 264人
- 負傷者 7人

カ 事故の状況

名古屋航空で中華航空機が、南北に延びる2,740m滑走路の南側から着陸しようとしたところ失敗し、墜落、飛散炎上し、乗客乗員271名が死傷するという大惨事となった

(3) 日本油脂株式会社愛知事業所武豊工場における火薬類爆発事故

- ア 発生日時 平成12年8月1日(火)22時9分頃
- イ 発生場所 日本油脂(株)愛知事業所武豊工場第12火薬類一時置き場
- ウ 当日の天候 気温26.3℃、相対湿度84%、平均風速3.1m/s
平均風向南東(武豊町役場午後10時データ)

エ 消防の動き

- (ア) 覚知 8月1日 22時11分
 (イ) 先着隊現場到着 8月1日 22時24分

オ 被害状況

(県とりまとめ分 平成12年9月4日現在)

	負傷者		住家被害(棟)		
	重傷	軽傷	全壊	半壊	一部損壊
半田市	0	1	0	0	0
常滑市	1	22	0	13	180
武豊町	2	53	12	21	312
計	3	76	12	34	492

カ 事故の状況

第12火薬類一時置場に存置していた一部の無煙火薬が高温高湿度下の環境下に置かれた結果、安定性が著しく低下し爆発して、建物内の無煙火薬全体の温度が急上昇して、燃焼から爆発に至った。

(4) エクソンモービル(有)名古屋油槽所特定屋外タンク貯蔵所火災事故

- ア 発生日時 平成15年8月29日(金) 15時35分頃
 イ 鎮火日時 平成15年8月29日(金) 19時20分
 ウ 発生場所 エクソンモービル(有)名古屋油槽所(名古屋市港区潮見町37-4)
 エ 当日の天候 天候 曇り 気温 31.6度 相対湿度 57%
 風向 南西 風速 2m/s
 オ 被害状況 死者 6名 重傷者 1名

カ 事故の状況

タンク改修(インナーフロート設置)工事を行うため、タンク内部のガソリンを抜き取り後、清掃作業中に出火したもの。

(5) 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所 COG(コークスガス)ホルダー爆発火災事故

- ア 発生日時 平成15年9月3日(水) 19時40分頃
 イ 鎮火日時 平成15年9月4日(木) 3時26分
 ウ 発生場所 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所(東海市東海町五丁目3)
 エ 当日の天候 天候 晴れ 気温 31度 相対湿度 76%
 風向 西北西 風速 5m/s
 オ 被害状況 事業所 負傷者 15名(重傷1名、軽傷14名)
 周辺地域 負傷者 11名(耳の違和感等)

カ 事故の状況

COGガスホルダー(4万m³)が爆発、燃焼し、隣接するBFGガスホルダー(10万m³)が誘発燃焼し、他のCOGガスホルダー(10万m³)が一部変形したもの。

(6) 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所 事故

- ア 発生日時 平成26年9月3日(水) 12時36分頃
 イ 鎮火日時 平成26年9月4日(木) 3時33分
 ウ 発生場所 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所(東海市東海町五丁目3)
 エ 当日の天候 天候 晴れ 気温 29度 相対湿度 60%
 風向 南南東 風速 5.3m/s
 オ 被害状況 事業所 負傷者 15名(重傷5名、軽傷10名)

カ 事故の状況

第1コークス炉石炭塔ホッパー内より白煙が発生後、異常燃焼及び爆発が発生したもの。また、第1コークス炉から第3コークス炉に繋がるベルトコンベアに延焼したもの。